

ならじよ  
奈良女子大学通信

# today

vol.  
32  
May  
2019

## 創立百十周年特集号

回顧と展望に映し出される  
奈良女子大学の“まことの教え草”  
とじ込み付録 奈良の見方ガイドマップ



ととせ ももとせ とこしへに

奈良女子大学は創立百十周年を迎えました。



02 **特編** 奈良女子大学創立百十周年記念対談  
回顧と展望に映し出される  
奈良女子大学の“まことの教え草”

- 08 奈良女の今
- 14 奈良女子大学的奈良の見方ガイドマップ
- 24 ワタシと奈良女子大学
- 28 ワタシの奈良女子大学フォルダ
- 32 学生・OG対談 奈良女スポーツを楽しむ  
～奈良女子大学体育会 温故知新～
- 36 佐保会各支部リレー便り
- 38 広報企画室より  
学生記者の皆さんへ「記者活動証」を授与!!/  
2018年度学生表彰



佐保会理事長  
**松尾 欣枝**

Matsuo Yoshie

奈良女子大学 学長  
**今岡 春樹**

Imaoka Haruki

佐保会館にて

奈良女子大学創立百十周年記念対談  
回顧と展望に映し出される奈良女子大学の“まことの教え草”

2019年、奈良女子大学は創立百十周年を迎えます。  
前身である奈良女子高等師範学校時代から脈々と息づく伝統と、時代の変化に伴うこれからの奈良女のあり方について、今岡学長と奈良女子高等師範学校・奈良女子大学の同窓会である一般社団法人佐保会の松尾理事長にそれぞれの想いを語っていただきました。

**明治時代から続く本学の歴史**

**今岡** 本日は、本学の同窓会組織である佐保会の理事長・松尾さんとの対談です。どうぞよろしくお願ひします。

**松尾** よろしくお願ひします。

**今岡** 松尾さんより、「松尾先生」のほうが私には耳慣れています。本学を卒業されて、長く教授としてお勤めになっておられましたね。

**松尾** はい、私が現役の頃は今岡先生と通勤の電車内でお会いすることもしょっちゅうでした。本学を卒業し、大学院は他大学だったのですが、28歳で再び助手として本学に戻ってからは定年まで。その後はずっと佐保会に係わってました。

**今岡** 松尾先生の学生時代はまだ本学に大学院がなく、さらに勉強しようと思うと他大学へ行くしかなかったんですね。外へ出ておられた時期はあるものの、ずっと本学にいらっしやるイメージが強いです。そんな松尾先生と、本日は本学の百十周年記念対談ということで、これまでの本学、これからの本学について大いに語り合いたいと思います。

**松尾** 本学の前身である奈良女高師（奈良女子高等師範学校）が設立され授業を開始

したのは今から110年前の1909（明治42）年。東京に次ぐ第二女子高等師範学校を京都と奈良のどちらに作るか、帝国議会で議論の末、僅差で奈良に決まったとうかがっています。

**今岡** 女子高等師範学校というのは、中等学校の女子教員を養成する官立の機関です。最初の女高師は首都・東京に置かれ、第二の女高師は古都・奈良に。始まりからドラマを感じますよね。

**松尾** その奈良女高師の同窓会機関として1914（大正3）年に発足したのが佐保会です。1936（昭和11）年に社団法人となり、さらに2012（平成24）年に一般社団法人に移行しました。同窓会と言っても単なる卒業生が集まったり大学を支援したりするだけではなく、公益事業を展開して社会貢献を行う拠点でもあります。

**今岡** ちなみに、本日の対談は佐保会の本部が置かれる佐保会館内で行っています。昭和天皇のご成婚記念事業として企画され、1928（昭和3）年に竣工されたもので、国の登録有形文化財にも指定されている非常に美しい建物です。

**松尾** 平成の大修理から10年目の昨年に外壁や雨樋、鬼瓦を変えるなどして補修したばかりです。和室と洋室の両方があり、2階には大ホールもあって、一般の方も参加いただけるコンサートや講演などもここでを行っていますよ。

**存続の危機を救った  
同窓会組織・佐保会の活躍**

**今岡** 奈良女高師が現在の奈良女子大学になったのは、第二次大戦の敗戦後の1949



今岡 春樹(いまおか はるき)

工学博士。通産省工業技術院繊維高分子材料研究所技官、奈良女子大学家政学部助教授を経て、2001年奈良女子大学教授、2011年生活環境学部部長を歴任。2013年に奈良女子大学学長に就任した。専門研究分野はアパレル工学。

にもそれぞれの苦悩があつて、それら乗り越えながら続いていきます。次の時代にも本学の伝統が続くよう、努力していきたいですね。

### 研究者をサポートする 本学の取り組み

ポータ的な役割にまわってしまいがちです。そのような状況を良しとせず、主体性を求めて本学の門を叩く学生は多いと思いますね。



松尾 敬枝(まつお よしえ)

理学博士。1966年奈良女子大学理学部助手、助教授、教授、1998年奈良女子大学大学院人間文化研究科教授を経て、2003年定年退官。専門分野は金属物性(実験)。奈良女子大学名誉教授。2016年より一般社団法人佐保会理事長。

(昭和24)年。創立からちょうど40年が過ぎた年でもあります。学制改革によって大学の再編が行われる中、奈良女高師を大学に昇格させようという運動が起こりました。

### 目まぐるしく変化した 百周年からの10年間

今岡 粘り強い交渉の中でGHQ内部に賛同者を見つけ、奈良女子大学の設立にこぎつけた。これは本当に奇跡的なことだと思ひます。

今岡 本学の強みは、教育の基礎の部分を引きんと抑えられているという点にあると思ひます。受験テクニックを磨くのではなく、自分で考えて「わかった」となるまでの積み重ねが学問では大事です。

### 本学が育む強みとは

今岡 厳しいと感じられる方もいらっしゃるかもしれませんが、わからないから逃げずに正面から受け止めなくてはなりません。1ヶ月後でもいい、自分で調べたり考えたりして、次に先生に会う頃には完璧に答えられるようになることが伸びていきます。

今岡 学内に男女共同参画推進室(現在は推進機構)が設置されたのは15年ほど前のことです。「女性研究者支援モデル育成」という国の事業に採択され、その事業が終了した後も学内の事業として継続してあります。



今岡 法人化によって以前よりも予算を柔軟に使えるようになったというメリットもありますが、やはり厳しいですね。今までは18歳人口が減っても進学率が上昇していたこともあり、受験者数はさほど変化していなかったんです。



今岡 おっしゃるとおりです。この10年の変化という点、従来から大学の役割とされてきた教育、研究のほかに、社会貢献という項目が新たに加えられたことも挙げられます。時代が、あるいは社会が求める大学の姿を考えなくてはなりません。

今岡 時代と共に、大学も同窓会も求められることが変わっているわけですね。どんな組織

**松尾** 自分で考える力を伸ばせるというのは、本学が少人数制であることが大きいと思います。1クラスに何十人もいると、話を聞いていなくても誰も気づかない。クラスに7、8人しかいないとちょっとサボっただけですぐにバレちゃいますからね(笑)。

**今岡** 平成に入る少し前に男女雇用機会均等法が施行されてから30年余り。見渡してみると、本学出身の優秀な人材が各所で活躍していますね。会社に入って1人前になるためだけに教育があるわけではないですが、学生が興味のあることを一生懸命学び、自分で考え、行動するという教育が実を結んでいると感じます。

**今もなお変わらぬ 卒業生の連帯とネットワーク**

**今岡** 佐保会が企画する講演会は本学出身者が多いですね。

**松尾** なるべくそうするようにしています。佐保会で講演会を企画していると、どの分野にも本学出身者がいて驚くんですよ。

**今岡** たしかにそうですね！

**松尾** 研究者、美術館や博物館の学芸員、歌手、小説家、メディア編集長など、それはバラエティに富んだ進路を選ばれていますね。先日は講師になった卒業生に来ていただきました。皆さんそれぞれの分野で活躍されています。

**今岡** 卒業から何年も経っている同窓生のことをよく把握しておられるなど感心するんです。講演会に招待する卒業生を探せるということもありますし、卒業後30年、40年、50年と節目の年に行う同窓会の参加率も約6割と驚くほど高い。

学部がない。実は全国でも奈良県だけがこのような状態なのです。本学が単体で新しい学部を創設するのは今の状況では難しい。奈良教育大学と協力し、お互いの資源を活用しながら実現していきたいですね。

**松尾** ユニークな発想ですね。奈良教育大学とのコラボレーションでありながら、工学部は女子に限定して新設を目指すのですね。

**今岡** 女子に限定した工学部というものを考える価値はあると思うんですよ。なぜなら、現状は工学部に入る女子は学生全体の10%を超えていません。化学系を専攻する女子学生は増えていますが、それでも全体では10%がせいぜいです。

**松尾** 女性が増えている分野もあります。理系の女性はまだまだ比率としては少ないですね。

**今岡** 理想としては、女性が4割くらいになれば、そこまでもっていくのはやはり女子大の果たす役割が大きいのではないかと思っています。本学の理学部がいい例ですが、修士課程はもともと100%女子です。本学ともうひとつの国立女子大であるお茶の水女子大学の修士課程で、全国の国立大学の理系修士課程の女子の3割くらいを占めています。共学の国立大で、女子が理学部の修士課程に進学する数が相対的に低いのです。それでいいのかなと。

**松尾** 工学系はコンピュータの自動制御をはじめ、いろんな設備が整ったことで、それまで女性参入の障壁となっていた体力、腕力という部分が解消されつつありますよね。

**今岡** そうですね。体力面でのバリアがなくなると、頭の中で考えていることだけでやっていけるようになれば、今度はむしろ男女の感じ方の違いが新しいアイデアに繋

**松尾** 実は、同窓会は55年、60年というものもあるんですよ。

**今岡** 60年もあったんですか！それはすごいですね。

**松尾** 卒業後60年といえば、82歳ですよ！お孫さんが車椅子を押してくれて参加するという方もいらっしゃいますね。

**今岡** 心温まるお話ですね。母校愛の強さを感じます。

**松尾** 本学の同窓会は名簿がしっかりしているんですよ。佐保会員1万6千人分の名簿があり、管理は大変です。佐保会には47都道府県や一部海外にも支部がありまして、講演会の講師の推薦の時などは支部長から「こんな人がいますよ」と紹介があったりします。地方新聞に本学出身者が載っていると教えてもらったりもしますね。

**今岡** そういった日頃の地道なやり取りが、卒業生のネットワークを強化することに繋がるわけですね。

**松尾** 先生をやっていると教え子との年賀状のやり取りもありますので、住所が変わったと連絡があると佐保会の名簿にも反映して、この連帯感の強さは女子大ならではの強さだと思います。

**女子大の伝統を守りつつ 法人統合を目指す**

**今岡** 百十周年を超えて、これからの本学がどうなるかというお話をさせてください。昨年に発表したことですが、本学は奈良教育大学と2022年度に法人統合を目指すことで合意しています。

**松尾** 卒業生からは「本学が女子大ではなくなるのでは」と、すごく心配する声も聞か

がつていくかもしれない。

**松尾** 他大学との共同研究などで女性が一人という時、同じ結果を目指していてもやっぱり発想が違います。考え方の違いがお互いの刺激になつてうまく回るといったことがたくさんありました。

**今岡** 工学部が新設されると、女子が増えますから理学部で学んだ後、修士・博士課程は工学部という進路も考えられます。

**松尾** いいですね。理学部で十分に基礎を学んで、「マスター・ドクター」は工学部でものづくり。

**今岡** 先程、男女共同参画の話題の中でもあったとおり、世界的に理工系分野で女子の比率を上げていくという戦略がとられています。日本でもこの動きを加速させるため、ぜひ工学部設立を実現して本学から狼煙をあげたいですね。

**時代を超えて受け継ぐ「まことの教え草」**

**今岡** 時代の移り変わりのスピードがこの10年でますます加速しているように感じます。10年遠征は、常識や感覚が180度変わってしまう。スマートフォンの出現で、コミュニケーションのとり方もずいぶん変化しています。学生や卒業生を見ていて、どのよう

に感じられますか。

**松尾** 私が理事長になる以前は、学生さん向けの就職懇談会を毎年していたんです。卒業生で様々な企業にお勧めされている方を呼んで、講演をしてもらっていました。ですが、近年では学生の参加者が減少し、企画を廃止したんです。私の時代ですと、先生が学生の適正をみて「ここがいいと思う」とア

れますが、ここが女子大であることは変わらないですよ。

**今岡** おっしゃるとおり。あくまで、経営を共にするホールディングス形式ということであって、それぞれの伝統は継続します。

**松尾** 発表があった時は「伝統ある本学が合併してしまふのか」と大騒ぎでした。学長の言葉を聞いて安心しましたよ。

**今岡** 合併ではありませぬ。1法人で複数の大学を運営するという形式は、私立大学ですで行われていることです。共学と女子大を一緒に経営している例もあります。どうぞご安心ください。

**松尾** 法人統合の目的は何でしょうか。

**今岡** 先ほど話題にあがったように、少子化が進む中で競争力を高めることが狙いです。2大学が持つ教育研究資源を活用していくほか、運営や管理部門の効率化を図って経営基盤を強化していきたいと考えています。教養教育を共同で行った

り、新たな教員養成システムを構築するという話もあがっています。

**松尾** それぞれの強みを活かす取り組みが行われることになるんですね。お互いが伝統校ですので、調整も大変かと思えます。

**今岡** そうですね。本学には奈良女高師か

ドバイスしたり、先輩からの紹介があったのですが、それもあまりないようですね。今の学生にどのように協力できるか、試行錯誤しています。

**今岡** 学問の世界も昔は先生や先輩との繋がりが強かったですが、時代と共に繋がりが方にも変化が見られますね。

**松尾** 感覚の違いは否めませんね。ただ、佐保会のような人間関係はすぐにできるものではないですね。先輩方が長い年月をかけて築き上げてきたものを、ぜひ次の世代が受け継いでほしいですね。

**今岡** 受け継がないのはもったいない。

**松尾** 卒業生と学生との交流の場として、「新年の集い」というものは継続しています。楽しくお食事しましょうというもので、より参加しやすいと思います。古くから行われている奨学金や卒業式のお祝いなどは、これからもずっと続けていきたいですね。

**今岡** 本学の入学式や卒業式では必ず奈良女高師の校歌が歌われますが、その中に「つめよまことの教え草」という一節があります。貞明皇后(大正天皇の皇后)からいただいた歌詞だそうですが、本学らしさがここに詰まっているような気がします。

**松尾** 同窓会や佐保会の総会ではこれを歌わないと終わらないですよ。110年前、教育



ら続く女子教育の伝統があり、奈良教育大学にも共学校としての自負があります。お互いの良さを活かし、奈良全体を盛り上げる動きにしていきたいですね。

**女子工学部設立への想い**

**今岡** 法人統合を機に、女子の工学部を創設したいと考えているんです。県内には高専と大学院大学があるのですが、大学の工

者を育てるためにできた学校ですので、その気概がこめられた歌詞だと思えますね。学んだことをきちんと故郷に持って帰って、連綿と学び続けてほしいというメッセージではないかと。

**今岡** 百十周年を迎え、さらに次の世代に「まことの教え草」を受け継いでいきたいものです。佐保会のような同窓会組織を100年以上存続するというのは大変なこと。ぜひ、これからも本学と歩みを共にしていただきたいですね。

**奈良女子高等師範学校 校歌**

(一) 春日の山に 出する日の  
くもらぬ光 仰ぎつつ  
かざせや心の 花さくら  
つめよまことの 教え草

(二) みなもと清き 佐保川の  
みぎわの柳 うちほえて  
古きを訪ね 新しき  
道にすすめや ひとすじに



## 男女共同参画推進機構 ダイバーシティ研究環境支援本部



理学部  
化学生物環境学科  
生物科学コース  
教授

春本 晃江  
はるもと てるえ

### 次世代の架け橋となるために 多様な社会を求めて

「ダイバーシティ」とはどのような意味  
なのでしょうか

ダイバーシティというのは「多様性」という意味があります。日本の社会はどちらかというと男性優位社会といえますが、これからは男性も女性もLGBTの人たちも含めた多様な人たちが社会を構成していかないとけないという考えです。

なぜ今「ダイバーシティ」が必要だと思いますか

私は生物の研究をしています。生物の「多様性」というのはとても重要なことです。生物の世界では遺伝的に均一な集団というのは非常に弱く、環境変化によって全滅してしまう恐れがあります。しかし、多様性を持つ集団というのは遺伝的にいろいろなものを持っていて、何か環境の変化があっても集団の一部は必ず生き残ります。それは現代社会についても同じことで、これから起こると予測される変化や予想外の変化に対応するには多様性のある社会が持つ強さが必要だと思います。

女性が実際に働くうえで困っていることは何でしょうか

固定的性別役割分担意識が強いということ、女性の社会進出のための社会的基盤が整っていないということが、働きにくい理由の背景にあるのだと思います。性差による役割分担意識は少なくなってきたとはいえ、未だ根深く残っている場面があります。また、女性

の社会進出を支えていくための社会的基盤がないために、いざ働きたいと思っても、特に育児などが女性の負担になってしまうということは避けられません。

先生が活動されてきたこれまでの内容を  
ご紹介ください

今から14年ほど前に、日本は女性研究者があまりにも少ない上に、家庭生活と研究の両立が出来ないことを理由にやめてしまう研究者がいるのは国の損失であるという問題が提起されました。そして、それを解決するために女性たちの支援をしようと、平成18年度に文部科学省が女性研究者支援モデル育成プロジェクトを始め、採択期間の三年間に他大学のモデルとなるようなシステムを作ることを期待され、奈良女子大学は採択されました。本学はこれまでにも、研究と家庭が両立できるように保育所を設立しようと試みたことはあったものの、予算不足のために断念したことがありましたが、このプロジェクトに採択されたことにより、いろいろな事業に取り組みできるようになりました。

採択されてからは、まず最初に、どのような支援モデルが構築できるかを考察しました。当時、本学の子育て支援状況は、保育所や一時預かりの部屋は設置されていない状態でした。そのため保育所の設置を考えましたが、保育所を設置・維持するためには多額の費用がかかるので、遠方に住む教職員、学生には不都合であると考え、保育所の設置は不都合だと判断しました。では、本学のように規模が小さくても運用できるシステム、むしろ小さいという特性を生かしたことによる細やかな支援ができるような取り組みをする

部では、主に講演会などで男女共同参画の意識啓発活動をしています。

最後に一言メッセージをお願いします

いろいろな困難なことがあっても、過ぎてしまえば失敗も全て経験やその人の糧になるものなので、何事も恐れず、いろいろなことにチャレンジして欲しいと思います。私も子育てと研究の両立という経験の中で苦労したことを、なんとか次の世代の人たちを手助けすることに活かしたいということもあり、それが「ならっこネット」を立ち上げるきっかけになりました。地域の方々やスタッフの支えもあって、システムは順調に稼働しており、これからも大学のご理解をいただいで、この調子で続けていくことができればと思っています。

ことはできないかと、私たちは考察しました。そこで、利用者のそれぞれのニーズに合わせるシステムを立ち上げるために、利用者の方々が求めていることを知るためのアンケート調査を試みました。その中で、学会や研究会が時間帯を問わず、各地で開催されるため、保育所が託児できる時間・場所以外で預かって欲しいというものが、学童保育所から塾に送り迎えをして欲しい、女性が働くことに理解があつて信頼できる方に子供を見て欲しいなどといった声があることがわかりました。また、学生やポストドクターの方が気兼ねなく利用できるような費用を抑制することや、お子さんを預かるサポーターについても大学の取り組みに理解がある方が良いということも、本学と地元の方々との強い絆を生かすシステムを立ち上げる、という結論に至りました。これが「ならっこネット」というシステムです。

「ならっこネット」とはどのようなものでしょうか

Webシステム「Webならっこ」を使ったサポーター派遣システムです。PCやスマートフォン、タブレットを用いて、サポーターに子どもの送迎や預かりなどを依頼します。子育て支援が必要な学生や教職員など、本学に関係のある方が利用できます。システムの説明をしますと、利用者やサポーターを募集した後、各々がそれぞれこのシステムに登録し、利用者の条件にあったサポーター数名を面談により前もってマッチングしておきます。支援の依頼を利用者が携帯電話やパソコンから「Webならっこ」を通じてマッチングされたサポーターに送り、そのメールを見て、対応可能なサポーターが返信します。もし複数の方が立候補した場合は、利用者が担当するサポーターを決めます。そして支援当日、「支援開始」という通知が「Webならっこ」のサーバーから利用者に通知され、支援の様子を常時パソコンで確認することが可能になっています。サーバーはスタッフが管理しているため、万が一何かトラブルやエラーが発生した場合でも、すぐに状況を把握して問題を解決するということができます。預かり場所は「ならっこルーム」という場所を大学内に用意していますが、様々なケースに可能な限り対応しており、保険にも加入していますので、例えば動物園に引率するといったことも安全にできるようにしています。預かり対象年齢は満3ヶ月から12歳(小学校6年生)までですが中学生まで延長可能となっています。特徴としては「迅速性」、「柔軟性」を重視しており、支援依頼はサーバーの利用によりスピーディーにできるため、当日でも利用開始の90分前まで対応可能となっています。そして、サポーターの質を高める取り組みとして、事業の趣旨を登録説明会で説明し、その後もブラッシュアップ講座などスキルを高める講座も開講しています。その結果、信頼性の高いサポーターによる支援ができています。



学内預かり支援室「ならっこルーム」の説明を行う春本教授

他にはどのような取り組みがなされていますか

育児中の本学学部及び大学院に在籍する正規学生を支援する「育児奨学金制度」として、大学が「ならっこネット」を利用した代金の一部を肩代わりするという制度もあります。ポストドクターには、「ポストドクター育児支援金制度」があります。また、出産・育児・介護等に関する教員の教育研究活動の支援のために、主に博士後期課程修了者を教育研究支援員として採用する「教育研究支援員制度」というシステムもあり、大学の費用で運用しています。ワークライフバランス支援相談室も設置しており、助産師と産婦人科医師、社会福祉士といった3人のカウンセラーの方が様々な相談に応じています。これらのシステムは、女性だけでなく男性にも開かれています。さらに意識啓発活動も行っており、「男女共同参画推進本

### 学生記者の声



今回は子育てとキャリアを両立しようとする時にどんなサポートがあるのかという話を伺うことが出来ました。女性だからという理由で夢を諦めたりする事がないように、今、何が必要とされているのかについてお伝え出来ていたいへん嬉しく思います。

中根 明日香(なかね あすか)  
理学部数物科学科数物連携コース4年生  
出身校:四天王寺高等学校(大阪府)

## 大学院生活工学共同専攻



生活環境学部  
情報衣環境学科  
衣環境学コース  
講師

佐藤 克成

さとう かつなり

### モノづくりの現場に 女性の視点を 変革の最前線でタッグを組む 東西の国立女子大

生活工学とは、何でしょうか  
工学というのは技術追求型の学問と言えま  
す。技術を磨いてより良いものを作っているこ  
ととする、まさに下町ロケットの世界ですね。  
とにかく良いものを作っていくことが求められ  
ますが、それと同時に、その技術をどのように  
生活に活かしていくかということも大事な  
ですね。つまり生活工学の目指すところは、技  
術を追求していくのと同時に、その技術をどう  
やって社会に活かしていくかを示すことです。  
そのために、人々の生活をしっかりと観察し  
て、生活の中でこういうところが困ってそう  
だとか、こういう問題を解決するには、こうい  
う技術が使えそうだなという仮説を立て、実証実験  
をして改善し、実用的なものとして世の中を良  
くしていくのが生活工学かなと思います。

理工系専門知識を有する女性人材の  
育成が必要なのはどうしてでしょうか

まず、理工系専門知識とは何なのかにつ  
いてお話しします。例えば生活工学については、  
数学や物理に関する専門的な内容を学び、あ  
る特定の分野での有効な知識を身につけると  
いったイメージがあるかもしれませんが、しか  
し大学で学ぶ大切なことは、何か問題に直面  
した時に、その問題解決へのプロセスや取り  
組み方です。理工系の専門知識というのは、  
問題の本質をどのように捉えて、それをどの  
ように解決していくかを学ぶことで得られ

なぜお茶の水女子大学との共同  
専攻なのでしょう

生活工学が目指す生活に密着した科  
学をやっていたのが、いわゆる昔からあ  
る家政学系、生活科学系などですね。  
そういった学部を持っているのが、国立  
大学でいうと、お茶の水女子大学と奈  
良女子大学の二つです。そしてこの二つ  
の大学には、工学系の学位を取得して  
いて、工学系の知識があり、生活科学と  
いう観点で研究してきた実績のある  
教員が所属していました。なので、大学  
院に生活工学を教育・研究する専攻を  
作るようになった時に、これらの大学が組  
むというのは、必然でした。

お茶の水女子大学との共同の活  
動(授業など)にはどういったものがあ  
りますか

授業という話で言うと、座学は全て共  
同です。遠隔講義システムがあり、お茶の  
水女子大学と奈良女子大学をつないで、  
授業を行っています。共同で行う実習は、  
遠隔講義システムの映像と音声だけでは  
難しい部分もあるので、互いに相手の大  
学へ行き、集中講義の形式で演習、実習を  
行っています。その他、両大学の研究室で  
合同ゼミのようなものを行っており、相  
手大学と自分の大学で互いの研究内容を  
聞き、意見を出し合うといった授業もし  
ています。研究指導では、学生は、副指導  
という形で相手大学の教員を一名指名し、  
指導を受けることができます。

どういった教育研究設備を用いていま  
すか

一つは、先ほど言った遠隔講義システムで、  
授業や会議などを行っています。また、共同  
専攻の学生は、相手大学の学生証も発行され  
るので、相手大学の図書館や建物内に入れま  
すし、両大学の設備を全部使うことができま  
す。例えば奈良女には3Dプリンター、モー  
ションキャプチャという人の動作を計測する  
装置、温度と湿度を一定に保つ部屋、人の状態  
を計測するための脳波や体温を測る計測装  
置などがあります。



モーションキャプチャを用いて手の運動を可視化する様子

修了後の進路について教えてください

私の研究室を卒業した学生の話になりま  
すが、去年は2名修了者がいました。  
一人はもともと文系でしたが、就職先は、家  
電メーカーです。高校までは文系で、学部  
時に文理融合型のコースで衣服について学  
び、そこから大学院生活工学共同専攻でモノ

づくりのノウハウを学んでその面白さを知  
り、エンジニアとして就職しました。

もう一人は、理系から専門的な営業職とし  
て就職しました。その卒業生は、共同専攻で  
体系的なことを学びましたが、作る側より  
も、広める側に興味を持ち、また、国際的に活  
動することに興味があつて、海外の部署でも  
働ける営業職として働いています。研究テ  
ーマはコンピュータ関連でしたが、今は、機能性  
材料に関する営業をしています。こうした仕  
事に就いたのは、共同専攻という様々な分野  
の教員がいる環境の中で、広く学んだ経験が  
活かされていると思います。

そういう意味で、共同専攻では、進路が特  
にこれと決まっておらず、それぞれエンジニア  
にも営業職にも、なりたい職種に就けます。

共同専攻で学ぶ魅力は何でしょうか

一番の魅力は、幅広い分野の教員がたくさん  
いる環境で学べることです。共同専攻は、定員  
が両大学それぞれ七人ずつですが、教員は各  
大学七人以上います。教員の扱う分野に関し  
ても、材料系、情報系、建築環境系と多岐に渡  
り、また、相手大学の教員の指導を受けられる  
ので、教員が二大学合わせて二十名弱いる状態  
です。学生と教員の比率としてこれほど恵ま  
れている環境は、他にないと思います。生活者  
の視点で考える場合に、生活者を想像的に捉  
えるという視点も大事です。人々の生活につ  
いて科学することを考えると、ある特定の分野  
だけを考えることも、もちろん大事ですが、総  
合的な幅広い見方をすることもとても大事に  
なっています。共同専攻だと、まさにその見方  
が養えます。非常に多種多様な先生たちの意  
見をもらえるし、在籍している学生との交流

る、モノづくり全般に通じる汎用的能力だと  
言えます。

次に、どうして女性がその知識を身につける  
必要があるかについてですが、モノづくりの現  
場を考えたときの多様性の問題ではないかと  
思っています。集団で何か物事をやり遂げよ  
うと考えたときに、国籍、性別、趣味嗜好など  
多様性のある集まりの方がうまくいくことが  
経験的に言われています。そういった多様性の  
あるモノづくりをしようと考えたときに、今の  
一般的な工学部を見てみると、もはや男子学  
部なんですね。今、モノを作っているのは、男性  
が中心なので視点が偏りがあります。モノを  
作るのに、性能ばかりを追って、使いやすさ  
という視点から外れているという指摘もありま  
す。モノづくりの現場に女性が入れれば、女性  
的な視点から開発が進み、多様性という意味で  
広がりが出てくると考えています。



もできます。生活工学に必要な幅広い知見と  
いうのを、かなり密な環境で得られます。その  
ことは、修了後の進路についてもお話ししたよ  
うに、可能性を広げることにつながります。

もう一つは、学生に対する受け皿が広いこ  
とも特徴、メリットかなと思います。たくさ  
んの分野の教員がいるため、いろんな分野の  
研究に対して対応ができます。文理を問わ  
ず、学生の興味について幅広くすくいあげ  
ることが出来ます。このように、生活工学共  
同専攻は他にはない特長がたくさんありま  
す。ぜひ、幅広く視野を持って学びたい方、密  
な環境で学びたい方は大歓迎ですので、どん  
どん志をもって共同専攻の門戸をたたいて  
みてほしいと願っています。

### 学生記者の声



私自身、就職活動をする中で、何度か製造現場  
を見学しましたが、女性はほとんどいませんでした。  
先生のご指摘の通り、真に必要とされる製品  
を作るには、多様な立場からの視点が必要になっ  
てくると思います。この記事で、身近な生活工学  
に興味を持ち、モノづくりの現場に貢献してくれる  
女性を少しでも増やせたら幸いです。

高木 萌(たかぎ もえ)  
文学部人間科学科心理学コース4年生\*  
出身校:大阪府立北野高等学校  
\*学年は2018年度現在で記載

## 国際交流



奈良女子大学  
国際交流センター  
講師  
**松永 光代**  
まつなが みつよ

知らない世界とつながる  
ためらわずに一歩踏み出す楽しさ

国際交流センターが主催しているイベントにはどのようなものがありますか

日本人学生向けには、春休みや夏休みを利用して、10日から1ヶ月程度の短期海外研修があります。場所は5カ所あり、英語学習がメインの研修もあれば、その国の文化体験、インターンシップが目的の研修もあり、内容も様々です。留学生向けには、茶道や華道などの日本文化を体験してもらったり、研修旅行に行ったりします。研修旅行の行き先は主に奈良県内、特に自分たちではなかなか行けない奈良県中部や南部が多いです。また、海外の協定大学の学生に10日間ほど奈良女子大学に来てもらって、日本文化や奈良について学んでもらうサマープログラムという企画もあります。

日本人学生と留学生の交流事業としては、一緒にイベントを企画し運営する、という授業を開講しています。内容は、各国の料理を作って食べる、奈良の行事に参加する、などそのときの授業参加者によって自由に決めており、半年に2つあるいは3つの企画をします。これは国際交流の視点だけでなく、様々な考えを持つ人たちと共に協力しながら、イベント告知のためのポスターを作成し、実際にイベントを運営するというキャリア教育の視点でも学生たちにとって価値のある活動だと思っています。企画するのは授業受講者ですが、実際のイベントは受講者以外の人も気軽に参加してもらえらるものが多いです。食べ物についてのイベントが多いので

ですが、そういうときは授業を受けていない学生の参加も多いです。留学生の人たちは出身国・地域から持ってきた材料で本場の味を振る舞ってくれることもあるので、とても盛り上がりがあります。

国際交流と聞くと、なかなか参加を断れない学生もいるのではないかと思います。何か必要な知識や心意気はあるのでしょうか

必要な知識は何もありません！心意気とすれば、食わず嫌いをせずにまずは一歩踏み出してみたいと思います。国際交流と聞くと特別なものだと思う人も多いかもしれませんが、そんなことはありません。参加するきっかけは何でもよくて、もちろんある国の言葉や文化への興味でもいいですし、イベントのポスターに載っていた料理が美味しそう、という興味でもいいんです。イベントに参加したら、そこで留学生と仲良くなれるかもしれない、そうすればその友達についてもっと知りたいと思うようになりませんか？そんな風に、あまり気負わないで気楽に考えてみてください。

もうひとつ大切なのは、慎重になりすぎないことです。もちろん準備をしっかりすることは悪いことではありません。でも、実際に経験してみないとわからない、学べないことがたくさんあります。海外研修の場合、「こんなに自分ではできなかったのか」それなら「もっと話せるようになりたい」というモチベーションを得ることができず、全然知らない場所や文化の中で生活するので、短期間でも、より自立して帰ってくる人

奈良女子大学が国際交流を進めて目指すものは何ですか

本学では、今までお話ししたようなイベントやプログラム、各学部等が個別に主催する事業などを通じて、年間約130名の日本人学生が留学して、また年間約250名の留学生を受け入れています。留学生も日本人学生と同じ授業を受けることが多いのですが、日頃から席を並べる環境にあるのは良いことだと考えています。

その他には、現在、学内に国際空間と呼ばれるような場所を作ろうと計画しています。そこに行けば留学生と日本人学生が気軽に会話できて様々なイベントを開催できる、そんな空間を作ることが、学生同士の交流を活性化することができると考えています。

さらに大きな取り組みとしては、奈良女子大学は10年以上前からアジアにある協定校に先生を派遣して、日本語や日本文化の講義を提供しています。また、2018年にはバングラデシュのダッカ大学に海外拠点を設けており、今後、国際交流事業を展開していく予定です。

以上の取り組みを通して、アジアの学術文化や経済発展を担い、かつ日本の社会や文化を深く理解している女性を養成することは、国立の女子大学として大切な使命だと考えています。日本人学生については、学内の国際交流イベントや海外研修を通して国際感覚を身につけてもらい、国内外問わず活躍できる女性を養成することが、国際交流の最終的な目標の一つです。

読者の高校生にメッセージをお願いします

国際交流に限ったことではありませんが、気負わずに行動してみてください。何かを始めると、それが次へと繋がっていきます。3年前、ニュージラント研修に参加した学生たちは、研修先にも被害をもたらした2011年のカンタベリー地震について、そして同年に起こった東日本大震災について事前学習をしてから研修に行きました。現在、彼女たちは東日本大震災の支援グループを立ち上げて活動しています。お話ししているとおり、入り口は何でもいいのです。学生時代は多くの可能性があります。失敗も、学ぶことがある失敗ならいいことだと思います。慎重になりすぎず、気軽に、あなたの興味に向けて一歩踏み出してみてください。



国際交流イベントのチラシ

学生時代に国際交流のイベントに参加することにはどのような意義や影響があるとお考えですか

国内のイベントであれば、海外の文化を知る、留学生の友人を作る、など自分が海外と繋がるきっかけになります。海外研修であれば、語学学習のモチベーションが上がる、海外で実際の生活様式や文化に触れることができる、多くの人との出会いで視野が広がる、などがあります。もちろん、受ける影響は人それぞれです。経験によっても異なるでしょう。ただ、共通して得られるのは、自分とは異なる思想や生活文化を背景として暮らしている人と実際に関わり、身をもって受け入れる、という経験だと思っています。海外で学べることは語学だけではありません。今まで知らなかったような価値観やバックグラウンドを受け入れて柔軟に対応できる「国際感覚」を身につけてほしいと思っています。国際感覚は、海外と関わるときだけでなく、国内でも、相手のことを理解しようとして自分

の意見をしっかりと伝えようとしていたりする場面で必要になるものです。学生時代は、時間がたくさんありますから、とにかく様々な経験をしてみてください。感覚をつかんでほしいです。うまくいかないことも、二つの貴重な経験になるんですよ。

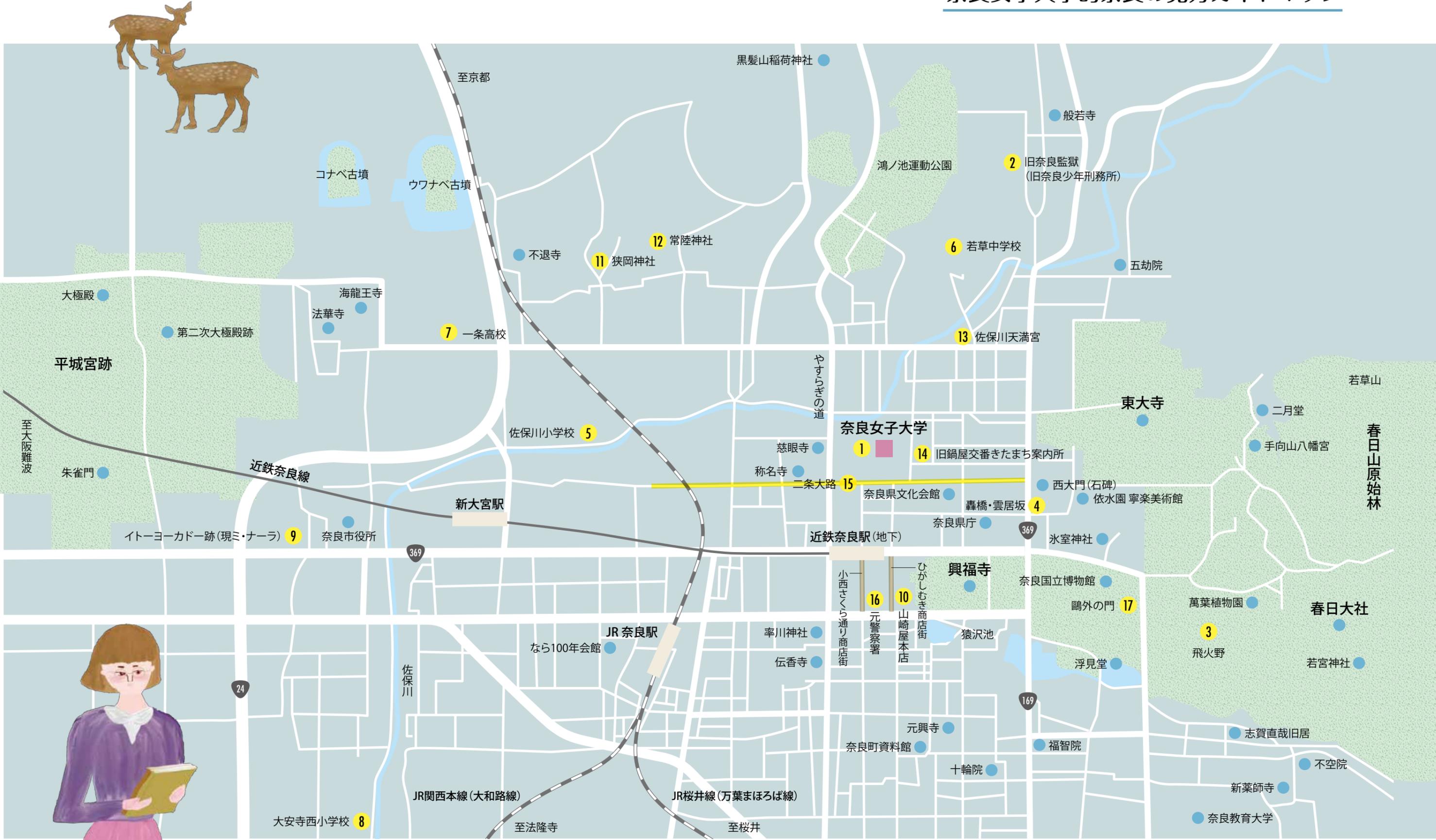
### 学生記者の声



私自身、海外に興味はあるけれど語学をはじめ不安要素が多くて国際交流への参加を決めかねた人でした。しかし、取材の前と後で、「国際交流」のイメージが大きく変わり、もっと気軽に新しいことにチャレンジしてみればいいのかと気づきました。記者活動を通して自分が変われるのはとても嬉しいです。

松原 結花(まつばら ゆか)  
文学部言語文化学科  
ヨーロッパ・アメリカ言語文化コース3年生  
出身校:東京都立町田高等学校

# 奈良女子大学的奈良の見方ガイドマップ



- |                   |          |                     |          |                 |         |
|-------------------|----------|---------------------|----------|-----------------|---------|
| 1 奈良女子大学          | 4 轟橋・雲居坂 | 7 一条高校              | 10 山崎屋本店 | 13 佐保川天満宮       | 16 元警察署 |
| 2 旧奈良監獄(旧奈良少年刑務所) | 5 佐保川小学校 | 8 大安寺西小学校           | 11 狭岡神社  | 14 旧鍋屋交番きたまち案内所 | 17 鷗外の門 |
| 3 飛火野(奈良公園)       | 6 若草中学校  | 9 イトーヨーカドー跡(現ミ・ナール) | 12 常陸神社  | 15 二条大路         |         |



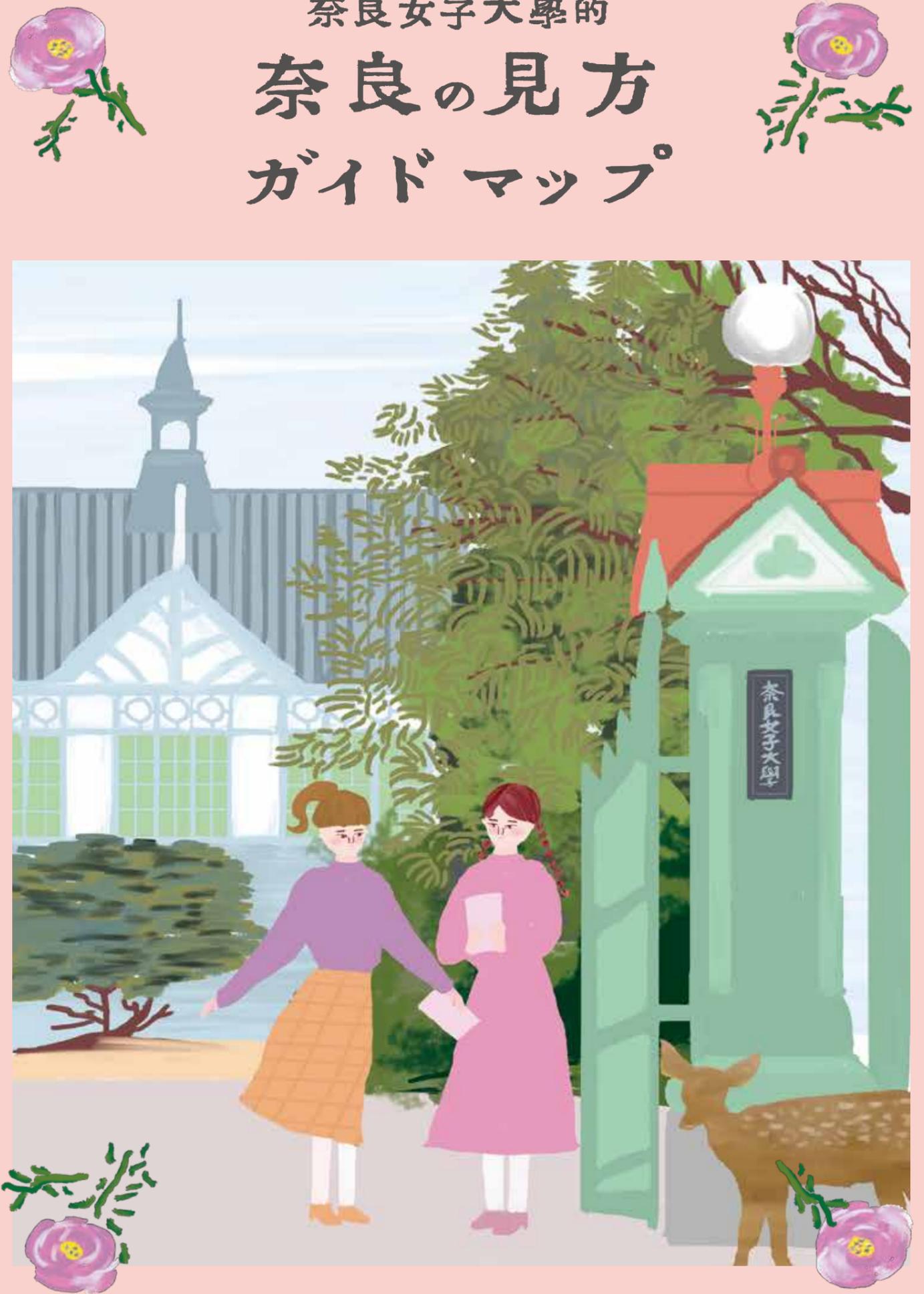
WEBで詳細な情報を公開中!

# 奈良女子大学的 奈良の見方 ガイドマップ



## 奈良女子大学的奈良の見方ガイドマップ 目次

土壤に生息するカビのニオイ分析	spot 1 A	奈良公園のシカ	spot 3
ヒマラヤスギ(とアケボノスギ)	spot 1 B	轟橋・雲居坂	spot 4
御下賜の花欄	spot 1 B	学校の敷地	spot 5 6 7 8 9
記念館の耐震構造	spot 1 C	奈良奉行所	spot 1 D
木造多層塔の耐震構造	spot 1 C	奈良漬サブレ	spot 10
奈良女子大学記念館	spot 1 C	狭岡神社・常陸神社・佐保川天満宮	spot 11 12 13
旧奈良少年刑務所	spot 2	旧鍋屋交番きたまち案内所	spot 14 E
旧・奈良少年刑務所	spot 2	二条大路「平城宮から東大寺へ」	spot 15 F
奈良監獄の思想と実践	spot 2	元警察署	spot 16
鹿のおじぎ	spot 3	鷗外の門	spot 17



## ヒマラヤスギ(とアケボノスギ)

理学部 化学生物環境学科生物科学コース 教授 酒井 敦 spot 1 B



正門から記念館を望む。記念館両側の常緑樹がヒマラヤスギ。左手前の落葉している高木はアケボノスギ(メタセコイア)。ヒマラヤスギの周囲には円形の裸地ができることが多い。

本学の正門を入るとまず目に留まるのが、正面に建つ記念館。記念館へと続く道の左右両翼に3本ずつ立ち並ぶ針葉樹の大木が、その背後の現代的な建築物を視線から遮り、正門からの眺めを一層、古風で趣のあるものにしていく。

これらの針葉樹のうち、一番正門に近い1対はアケボノスギ(メタセコイア)、記念館寄りの2対がヒマラヤスギである。アケボノスギは落葉性の高木。秋になるとオレンジがかった茶色に色付いた葉を小枝ごと落とす。高さ30メートルにもなるので「高くなりすぎて困るから」と無情にも幹の先端を伐られてしまうことが多いが、それでもなぜか、全体としてはきれいな円錐状の樹形となる、「絵になる」樹木。一方のヒマラヤスギは、名前とは違って「マツ科」の常緑針葉樹。枝ぶりは個体によって割合異なるものの、基本的にはやはり円錐状の樹形となる。常に緑色の小さな松葉状の葉をつけているが、年に1回、6月頃に、古くなった葉を一斉に落とす。枯葉が堆積した根元にはしばしば、草がほとんど生えない円形の「裸地」ができる。

## 御下賜の花欄 spot 1 B



正門から記念館と文学部N棟を望む。中央に並んでいる常緑樹がヒマラヤスギ。その向こうには思慮のカリンが、頑丈な鉄欄に守られて植わっている。筆者は、ヒマラヤスギの周囲にできる円形の裸地や、欄でシカから守られた植物に起こる変化について研究している。

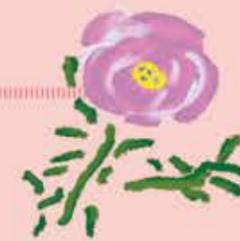
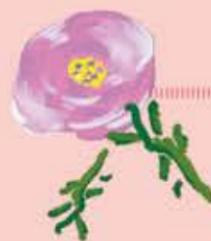


記念館の正面玄関前に立ち、正門の方を振り返ってみると、左右にそびえ立つヒマラヤスギが目飛び込んでくる。そのヒマラヤスギの少し手前外側寄りに、高さ1mほどの若草色の鉄欄で大事そうに守られた1対の低木がある。「御下賜の花欄」である。

太平洋戦争が始まってひと月あまりの1942(昭和17)年1月15日に発行された本学同窓会報「佐保会報」第13号に、以下のような内容の記事がある。"1941(昭和16)年11月24日、当時の皇太后陛下に八重桜を献納したところ、枝垂桜(シダレザクラ)と花欄(カリン)を賜った。12月2日に全校生徒参列して植樹式を挙行し、シダレザクラは運動場への傾斜面の中央に、カリンは(現在の記念館)玄関前芝生左右に植えた。"

記事は、"(これら御下賜の樹々が)寒風冷雨に侵されることなく無事根付き成長いたしますようにとひたすら祈って居ります"と結ばれている。その後、この「御下賜の花欄」は、寒風冷雨はもとより太平洋戦争の戦禍にも耐え、昭和と平成、二つの時代を生き抜くこととなった。今も立派な実をつけるほどに元気である。

記念館前、左右に植樹されている忍路のカリン。大切な樹木ゆえ、欄で囲うことで(不屈な輩はもちろん、シカからも)厳重に守られている。カリン以外の植物にとっても欄の中は安全地帯。



## 奈良女子大学的 奈良の見方ガイドマップ

奈良女子大学のある奈良市内には、数多くの文化財や珍しいスポットがあります。街中にはオシャレなガイドマップや、社寺中心の観光冊子などが各地に設置されていますが、今回は奈良市内に位置する大学ならではの“学術的にみた奈良”を集めました！中央ページのマップには文章で紹介したスポットの位置がプロットされていますので、それぞれの位置関係や大学との距離などをぜひ確認してみてくださいね。

※マップは冊子から切り離し可能です。



## 土壤に生息するカビのニオイ分析

理学部 化学生物環境学科化学コース 准教授 竹内 孝江 spot 1 A



カビ臭物質の分析風景



カビのニオイのGCMSおよびIMSスペクトルデータベース「MVOC Finder」のロゴマーク

カビは身近な生物の一つである。カビの一部は、チーズなど食品加工へ応用され、研究も進んでいる。しかし土壤に生息しているカビは、利用されず研究も少ない。土壤のカビは、古墳壁画などの文化財に損傷を与えるので、私たちは研究を進めている。

カビが繁殖して文化財に損傷を与え、目視できる状態では既に数十万個もの胞子が形成されている。その前の段階で検出できないかと考え、ニオイによる検出を試みた。古墳近辺や奈良女子大学内の土壤から採取されたカビ数種を培養し、胞子の発芽、菌糸の伸長、胞子形成の各段階で発生するニオイ物質の定性・定量分析をイオン移動度分析計やガスクロマトグラフ質量分析計を用いて行った。その結果、土壤に生息するカビは、生育の各段階で、異なる種類の物質を放出していること、その種類と濃度を計測することでカビの種類・生育段階を推定できることが分かった。カビのニオイ発生メカニズムの研究に取り組んでいる。

## 奈良女子大学記念館

生活環境学部 住環境学科 教授 藤田 盟児 spot 1 C



記念館

末の自然を模したアールヌーボーから、工業社会の嗜好に合わせた幾何学化したアールデコになりつつあったからで、時代の先端をゆくデザインだった。

奈良女子大学の前身である奈良女子高等師範学校の本館として明治42(1909)年に建てられた。平成2(1990)年から記念館になり、平成6(1994)年に守衛室や正門と共に重要文化財になった。2階建てで寄棟造の屋根中央にランタン、傾斜面には6ヶ所のドーマー窓、玄関ポーチの上には三角形のペディメントがあり、樹状の曲げ材が入れられている。縦長の上げ下げ窓の上下には、丸と十字を組み合わせた材や、波形と直線をX型に組み合わせさせた材が使われ、ハーフティンバーと呼ばれるヨーロッパ北部の民家様式とされている。1階は事務室(今は展示室)で、2階の講堂は折り上げ天井にして豊かな空間になっている。各所に四葉型や三葉型、花模様が使われているが、少し幾何学的だ。設計当時の流行が、19世紀

## 旧奈良少年刑務所 spot 2



奈良少年刑務所正門

旧奈良少年刑務所は、もとは明治の5大監獄の一つであった奈良監獄だ。世界的なジャズ・ピアニスト山下洋輔氏の祖父である山下啓次郎氏が設計し、明治41(1908)年に竣工した。日本の司法の近代化の象徴として翌々年にロンドンで開催された日英博覧会に模型が展示された。明治政府は、こうして近代国家になったことを世界にアピールして先進諸国の仲間入りを目指していたのだ。設計者の山下啓次郎氏は、そのために監獄建築に西洋のロマネスク様式を与えた。当時の建築意匠は、折衷様式といって、建物の用途ごとに適当な様式を採用するものであったことから、それを東京帝国大学工科大学造家学科で学んだ彼は、囚人の収容にふさわしいのは素朴な教会や城館をイメージさせるロマネスク様式であると考えたのだろう。軒先に付けられたロンバルディア帯とよばれるギザギザした飾りなどが特徴だ。ただし、白い水平帯などはルネッサンス様式である。ヒューマンリズムの象徴であるルネッサンス様式を加味することも意図していた。奈良監獄は、昭和21(1946)年に少年刑務所に変更され、平成28(2016)年に閉鎖された。

## 記念館の耐震構造

生活環境学部 住環境学科 准教授 龍野 敦夫 spot 1 C

奈良女子大学記念館は、1909(明治42)年に竣工された木造建築物で、重要文化財に指定されている。この建物は築100年以上が経過した古い建築物ではあるが、町家や社寺建築物などの伝統的な構法で建てられた建築物とは異なり、主な耐震要素が筋かいとなっている。これは、現代の一般的な木造住宅と同じような構法となる。しかし、このような古い建物は現在の耐震基準を満たしていないことが多く、奈良女子大学記念館も耐震診断の結果を受けて、2015(平成27)年に耐震補強工事が行われた。今は、漆喰仕上げの壁に覆われているため見ることはできないが、補強工事の際には筋かいを増やしたり、筋かいの端部に補強金物を取り付けたりしている。また、小屋組の中(2階の天井裏)には鋼製ブレースが張り巡らされており、地震の時に建物全体が一体的に振動することで地震に抵抗するような工夫がなされている。



記念館



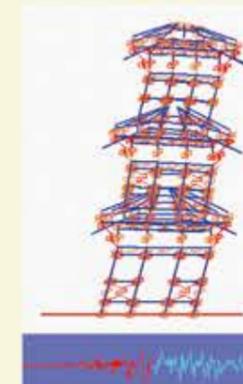
改修工事の様子

## 木造多層塔の耐震構造 spot 1 C

法隆寺五重塔や法起寺三重塔など奈良をはじめ日本には数多くの木造多層塔が現存している。それらの多くは三重塔か五重塔に分類されるが、いずれの多層塔も建築用途で考えると平屋建て(つまり1階建て)の建物にあたる。つまり、三重や五重に積み上げたものは全て屋根に該当する。これら木造多層塔は建物の幅に対して高さの比が圧倒的に大きいため、高層のビル群が長周期地震動によってゆっくり揺れるのと同じように、木造多層塔も地震の時にはゆっくりゆらゆらと揺れるのが特徴である。一般的に地震動は短い周期の(カタカタと早く揺れる)成分で揺れやすいので、ゆっくり揺れる木造多層塔は、地震の時に少し有利になる。つまり地震が起きたときにそもそも建物が揺れにくいということなので、木造多層塔は他の寺院建築などに比べて倒壊しにくいことになる。



三重塔の3次元CAD



地震応答解析結果の図

## 奈良公園のシカ

理学部 化学生物環境学科生物科学コース 准教授 佐藤 宏明 spot 3



下枝の高さがきれい揃っている樹木(写真1)

奈良公園にはおよそ1200頭のシカが生息している。奈良公園のシカは東大寺の大仏と並び、奈良市を代表する観光資源と言えるだろう。シカはまた、天然の芝刈り機でもあり、奈良公園の芝地の維持に欠かせない存在でもある。しかし、これだけの数のシカがいると、ほかの植物や植生にも何かしらの影響がみられる。その大きさは、気にする必要のない程度から、喫緊の課題を引き起こす程度まで様々である。シカが背伸びして口が届く高さで、樹木の枝がきれいに揃っている様子(写真1)や、シカに食べられないよう、植栽した稚樹を柵で囲わなければならないことは(写真2)、気にしなくてよいかもしれない。いっ

ぽう、春日大社境内のささやきの小径を通ると、林床に草本や稚樹がほとんど生えていないことに気付く(写真3)。これがシカによることは、柵で囲ってシカの採食を排除した区画とその外側を比較すれば明らかだ(写真4)。このままでは林の天然更新が進まず、林が衰退してしまう。奈良公園では進化生物学的に興味深い事象も確認できる。奈良公園のイラクサは近隣のイラクサと比較して刺毛を葉や茎に高密度に備えている(写真5)。これは、刺毛がシカに対する防御の役割を果たし、自然淘汰によって進化したと考えられている。



柵で囲まれた植栽木(写真2)



貧弱な林床植生(写真3)



柵で囲まれた区画とその外側(写真4)



イラクサ(写真5)

## 旧・奈良少年刑務所 奈良監獄の思想と実践

文学部 人文社会学科 社会情報学コース 教授 水垣 源太郎 spot 2



旧奈良少年刑務所

かつて「奈良監獄」と呼ばれたこの建物は1908(明治41)年に竣工したものであり、著名なジャズ・ピアニスト山下洋輔氏の祖父、山下啓次郎の設計になる美しい外観をそなえ、「明治5大監獄」の一つに数えられている。

この放射状の建築様式は、1872(明治5)年の「監獄則井図式」に始まる近代監獄制度に基づき、その思想は「最大多数個人の最大幸福」原則を主張したイギリスの哲学者ジェレミー・ベンサムに由来する。ベンサムは、社会の幸福を極大化するためには、犯罪者や貧困層の幸福を増大することが重要だと主張し、最小限の監視費用で犯罪者を更生する監獄施設を考案した。日本最初の近代的監獄といわれる鍛

冶橋監獄(1874年)をはじめ、旧奈良少年刑務所も放射状の様式で建築されている。

旧奈良少年刑務所はすでに廃庁となり、ホテルへの改修が進められているが、近代社会思想を体現してきたこの建物はまさしく「近代化遺産」と呼ぶにふさわしい。

<http://www.pref.nara.jp/secure/168632/narasyounenkeimusyo.jpg>

## 鹿のおじぎ

理学部 化学生物環境学科生物科学コース 教授 遊佐 陽一 spot 3



集団でひなたぼっこ中、鹿せんべいがないなら、早くあっちへ行っ

奈良公園のニホンジカは、野生動物であるにもかかわらず、長い間、人との関わりを持ち続けてきた。この鹿がおじぎをするのは、奈良公園を訪れたことのある人なら誰でも知っているだろう。しかし、このおじぎ行動は、そもそも何のために行っているだろう。また、一部の野生動物にも、人と同様、個体間で行動が伝播する「文化」のようなものがあることは知られているが、奈良の鹿のおじぎ行動もそのような文化的行動なのだろうか。それとも鹿は生まれつきおじぎをするものなのだろうか。このような疑問に十分に答えるだけのデータはまだないが、研究の結果、そのヒントとなることが

色々分かってきた。たとえば、調査の結果、おじぎをよくする鹿は鹿せんべいをより多く得ていることが明らかになり、おじぎ行動にはメリットがあることが分かった。また、鹿には高い学習能力が備わっており、その効果は数か月持続するということが明らかになった。



有用な人材(=鹿せんべいをもって  
いる人)かそうでないか確かめ中。

## 奈良漬サブレ

生活環境学部 食物栄養学科 教授 高村 仁知 spot 10



奈良漬サブレ

「奈良漬サブレ」シリーズは、奈良女子大学の学生たちで作る「奈良漬プロジェクト」(2006~2007年度)・「奈良の食プロジェクト」(2008年度~)と、奈良のお菓子教室「ドネー・ドゥ・ガトー」とのコラボレーションで開発を行った商品である。最初に開発した赤い箱の「奈良漬サブレ」(2008年2月発売)は、最も一般的な白瓜の奈良漬を刻み、バターたっぷりのサブレ生地に加えて焼き上げられている。第2弾となる黄色い箱の「しょうがの奈良漬サブレ」(2010年9月発売)は、しょうがの奈良漬を使ったサブレで、しょうがの香りと辛味がアクセントになっている。どちらも焼き上げる時にアルコール分が揮発しているため、奈良漬が苦手な方でも食べることができるお菓子である。奈良漬サブレは、原料となる奈良漬を製造

販売している山崎屋のほか、近鉄奈良駅構内などで販売されている。発売以来、各種のメディアで取り上げられ、2016年10月には「奈良遺産70」にも選ばれている。

## 轟橋・雲居坂

文学部 人文社会学科文化メディア学コース 教授 内田 忠賢 spot 4



「轟橋」(手前右)「雲居坂」(左奥)の石碑

奈良には南都八景と呼ばれる8つの美しい風景があった。佐保川の蜩、東大寺の鐘、三笠山の雪、春日野の鹿、南円堂の藤、猿沢池の月、雲居坂の雨、轟橋の行人(旅人)。現在では知られていない雲居坂、轟橋の場所は奈良県庁の東、奈良女のすぐ近くだ。南都八景は中国湖南の風景美、瀟湘八景を真似、室町時代に成立したと言われる。八景という風景美の見立てが特に流行したのは江戸時代。近江八景、金沢八景(現在の横浜市南部)、水戸八景などが有名だ。エリア内の地点・地名と、夜雨、晚鐘、落雁、晴嵐、帰帆、夕照、秋月、暮雪などを組み合わせた情緒的な風景美である。八景よりも三景という風景美をご存知かもしれない。江戸時代に選ばれ、現在も知られる日

本三景。松島(宮城県)、天橋立(京都府)、安芸宮島(広島県)。なお、近代以降も、新聞社主催の国民投票により、日本新三景(大正時代)、日本新八景(昭和戦前期)などが選定されている。

## 狭岡神社・常陸神社・佐保川天満宮

理学部 化学生物環境学科化学コース 教授 中沢 隆 spot 11 12 13

第11代垂仁天皇の皇后であった佐保姫(日本書紀では「狭穂姫命」)は、佐保川、佐保路をはじめ、本学同窓会の「佐保会」などに名を残す。境内に佐保姫の伝承の池や石碑がある狭岡神社は、藤原氏が氏神の春日大社を創建した768年より半世紀も早く、藤原不比等が716年に創祀したと伝えられている。狭岡神社の祭神に佐保姫の名は見えないが、この神社から奈良高校を挟んで東側にある常陸(ひたち)神社の祠の一つが「佐保姫大神」を祀る。佐保路をさらに1.5 km東に行った佐保川天満宮は、1560年に松永弾正久秀が多聞城を築いた際に、多聞山から「佐保姫明神」と「天の神」である雷神の2つの神を移して祀ったのが始まりである(『佐保川天満宮由緒考』西包永町自治会)。



狭岡神社



常陸神社



佐保川天満宮

## 学校の敷地

文学部 人文社会学科 古代文化学コース 教授 宮路 淳子 spot 5 6 7 8 9

奈良市内は古代には平城宮が置かれ、条坊が施行された計画的な都市景観を有していた平城京があった。今でも地面の下には、多くの遺跡が眠っている。地域に住む子どもたちが毎日通う学校の校庭や校舎の地下からも、重要な遺跡が発見されることが多い。これまでに奈良時代の貴族の邸宅跡や地方国の出先機関などが発見されている。

学校や公共施設の敷地は、発掘で一度に調査できる面積が広いので、遺構から建物の構造や配置を確かめることができ、出土した遺物とつきあわせることによって遺跡の性格を考えることができる。子どもたちが毎日通う学校が、自治体によって良い立地が選ばれて建てられているということも、重要な遺跡が見つかる要因の一つである。普段見慣れた場所が、実は重要な遺跡であった、ということは奈良ではよくあること。子どもたちにぜひ知って欲しい。

## 奈良奉行所 spot 1 D

奈良女子大学には、江戸時代には奈良町奉行所がおかれ、道をはさんで東隣に建つ学生寮の敷地には与力屋敷があった。奈良町奉行所は、慶長十八(1613)年に江戸幕府が遠国奉行の一つとして置いたもので、主に南都の町政や大和国内の社寺行政を担当していた。幕末の奈良町奉行川路聖謨は、弘化三(1846)年から嘉永五(1852)年まで奉行を務め、町衆と力を合わせて現在の奈良公園の界隈を整備し、佐保川沿いに桜を植林したなど、その善政で知られている。奈良女子大学の構内では、校舎の建設や建て替えのための工事の際に、地下から奈良町奉行所に関連する遺物が出土している。

## 元警察署

文学部 言語文化学科 日本アジア言語文化学コース 准教授 吉川 仁子 spot 16

白樺派の代表的作家である志賀直哉は、1925(大正14)年から1938(昭和13)年まで奈良に住んでいた。「犬」1928(昭和3)年1月という作品には、行方不明になった飼犬を探し回る「私」(志賀と重なる人物)が登場する。「私」は犬を探して、まず市役所に行き、次に警察署に行く。当時の市役所は猿沢池の南にあり、警察署は三条通と小西通の角(現在の三井住友銀行奈良支店の場所)にあった。警察署を訪ねた後、「私」は奈良駅(現JR奈良駅)の交番へ行き、そこからさらに西に4kmほど離れた尼ヶ辻でようやく犬と再会し、一緒に帰ってくる。この作品を読むと、犬を探す「私」の足取りがよくわかり、「私」と一緒に奈良を探し回っているような気持ちになる。しばしば動物を作品に取り入れた志賀らしい作品でもある。炎天下、奈良(当時の志賀の自宅は幸町。奈良教育大の西あたり。)から尼ヶ辻を自転車で往復した「私」は、さぞ疲れたことだろう。元警察署の場所に立って「私」の足取りに思いを馳せてみてはいかがだろうか。

## 鷗外の門 spot 17



鷗外の門(画像提供 奈良国立博物館)

「奈良五十首」のうち一首が刻まれている。「晴る日はみ倉守るわれ傘さして巡りてぞ見る雨の寺寺」の歌の通り、鷗外は、雨で正倉院の開扉が出来ない日に精力的に奈良の古跡を巡っている。日記、書簡、「奈良五十首」は、鷗外が奈良で何を見、何を感じ、何を考えたのかをたどる手がかりとなる。鷗外の見た寺々、正倉院の御物を、全くそのままではないまでも、今なお私たちも見ることが出来る。鷗外の奈良での足跡をたどってみるのもおすすめである。

明治・大正の文豪森鷗外。彼は晩年帝室博物館総長兼図書頭という職につき、その職務の一環として正倉院曝涼に立ち会うため、1918(大正7)年から10年の、毎年11月に約1か月間奈良に滞在した。その際、博物館官舎を宿舎としたが、その建物の門が「鷗外の門」として現在も残されている。傍らの石碑には、「猿の来(こ)し官舎の裏(うら)の大杉は折れて迹なし常なき世なり」という鷗外が奈良滞足を素材として詠んだ

## 旧鍋屋交番きたまち案内所

生活環境学部 住環境学科 教授 瀬渡 章子 spot 14 E



旧鍋屋交番きたまち案内所

旧鍋屋交番きたまち案内所は、奈良警察署の旧鍋屋連絡所を復元的に改修した建物で、地元では「鍋屋の交番」として長年親しまれてきた。正面屋根の三角形の破風、小尖塔の棟飾りがついた赤い屋根、上げ下げ窓などを特徴とするこの建物は、南へ約50メートルの場所にあった「鍋屋巡査派出所」が1928(昭和3)年に現在の地に移転した時に新築された。交番としては珍しい洋風の外観意匠は、当時、向いにあった奈良女子高等師範学校(現奈良女子大学)の洋風木造校舎の影響を受けたと考えられる。2004(平成16)年度末に交番は閉鎖され、解体を待つばかりの状態だった。このことを知った奈良女子大学の教員たちが建物の保存・活用について検討を始め、その後、地域をはじめ多くの人々の協力を得て、2012(平成24)年7月に現在の施設に生まれ変わった。地域住民、一般市民、大学関係者らでつくる「鍋屋連絡所の保存・活用と“奈良きたまち”のまちづくりを考える会」が運営し、観光案内、地域のまちづくり活動の拠点、大学の研究・教育の支援施設として幅広く活用されている。きたまちマップや各種催し物のチラシも置かれているので、一度覗いてみてはいかがだろうか。

## 二条大路「平城宮から東大寺へ」

文学部 人文社会学科 歴史学コース 准教授 西村 さとみ spot 15 F



二条大路の名残をとどめる奈良女子大学南門前の小道



西大門趾にたつ石碑と東大寺大仏殿

奈良女子大学の南門の東を東西に走る細い道は、約1300年前の都、平城京で朱雀大路に次ぐ広さを誇った二条大路の名残である。その道を東へと歩めば、京の東端、かつての東七坊大路に接して丁字路となり、「東大寺西大門趾」の石碑が迎えてくれる。西大門は、創建当初の東大寺の正門であり、二条大路に面して開かれたのは、その道が盧舎那仏の造立を発願した聖武天皇らが住まいし、役所が建ち並ぶ宮の正門、朱雀門の前へと通じていたからである。整備された朱雀門前の広場にいたれば、約37mという、往時の二条大路の道幅を体感することができる。

条坊制による区画は、長岡・平安京遷都後の土地利用にも影響を与えたため、奈良市街においては、日々何気なく歩いている道が平城京の大路・小路の名残であることが少なくない。平城京を偲ぶばかりでなく、その都市計画が以後の人びとの、そして私たちの生活をささえ続けていることに目を向けたい。



**私**が奈良女に来て良かったと思うのは、奈良女生や先生、職員の方と接していく中で、皆さんの優しさ、温かさを感じると思います。入学当時には不安がたくさんありましたが、ここなら4年間安心して過ごせようだな、と思いました。

■生活環境学部1回生 小泉奈津子

**入**学前に訪れた際は閑散とした寂しい場所だと感じた中庭。しかし学校生活が始まれば、晴れた日の昼休みには多くの人が集まり昼食をとる。談笑する声やギター—の音色、草木の香りが漂い、時には鹿も集まる中庭は今ではお気に入りの場所に。

■文学部2回生 熊崎可倫

**奈**良女はすごく優しく穏やかな雰囲気です。教授との距離も近く、疑問を質問しやすい環境です。生協の職員さんや学校の事務の方もすごく親切で温かいです。同級生と一緒にいて落ち着く楽しい人たちがばかりで、でも視点や発想、言葉選びも賢いあといつも刺激をもらっています。小規模女子大だからこそ、長くなって物事を企画したり挑戦したりする機会が多いです。奈良女に入り気配りや主体性が身についたなと感じています。歴史ある街にあるのも魅力で、空きコマに東大寺に散歩に行ったりと、四季を感じながら学べるのも嬉しいです。

■文学部2回生 倉西美羽

**正**直入学生する前は、女子大は少し怖いイメージがあったのですが、奈良女は学生も先生も本当にみんな優しく、とても平和な世界でした。困ったことがあっても助けてもらえ、毎日心穏やかに過ごせるところが大好きです。

**奈**良女の好きなところは、同級生も先輩方もとても優しく話しやすいところ。先生方も、とくに私がお世話になっている生物科学コースの先生方がとても親身で、相談などがとてもしやすいところ。

**奈**良女大学に来てよかったと思うのは、ただ一緒にいるだけで楽しい友人に出会えたことです。ユニフォームがあり、賢く優しい友人たちのおかげで今の私があります。

**奈**良女大学に来てよかったと思うのは、ただ一緒にいるだけで楽しい友人に出会えたことです。ユニフォームがあり、賢く優しい友人たちのおかげで今の私があります。

**奈**良女大学に来てよかったと思うのは、ただ一緒にいるだけで楽しい友人に出会えたことです。ユニフォームがあり、賢く優しい友人たちのおかげで今の私があります。

**奈**良女大学に来てよかったと思うのは、ただ一緒にいるだけで楽しい友人に出会えたことです。ユニフォームがあり、賢く優しい友人たちのおかげで今の私があります。

**奈**良女大学に来てよかったと思うのは、ただ一緒にいるだけで楽しい友人に出会えたことです。ユニフォームがあり、賢く優しい友人たちのおかげで今の私があります。

**奈**良女大学に来てよかったと思うのは、ただ一緒にいるだけで楽しい友人に出会えたことです。ユニフォームがあり、賢く優しい友人たちのおかげで今の私があります。

**奈**良女子大学の好きな所は、アットホームな雰囲気です！他の学生とはもちろん教授との距離がとても近いです。気軽に質問できるし教授や先輩の考えに触れられる機会が多いです！私にはこの雰囲気がとても合っていて来て良かったと思いました！

■文学部2回生 北岡加英

**私**は奈良女のアットホームな雰囲気が大好きです。特に食堂はいつも学生や先生、地域の方々笑顔であふれています。職員さんも優しい笑顔で美味しい学食を提供してくれます。そんなあたたかい交流がある奈良女に来て良かったと感じています。

■文学部2回生 山崎美久

**奈**良女はきちんと勉強に励むので、自分自身も有意義な大学生活を送れます。もちろん勉強だけでなく、大学生の間でしかできないこともいっぱい楽しめる大学です。

■文学部2回生 川崎光

**東**大寺や春日大社など世界遺産が多い上に京都・大阪も近いので、写真を撮るのが趣味なカメラ女子や観光が趣味の人には最高の立地！勉強はもちろん、趣味を充実させるにはこれ以上ない大学です！

■理学部 教員 春木晃江

**人**が大好きです。裏面目で努力家で、でも優しく一緒にいると安心する奈良女生。刺激し合う存在でありながら困ったときは助けてくれる。そんな素敵な人たちのおかげで毎日楽しいんだな～と思う。と、奈良女を選んだ自分にありがとうって言いたいです。

■文学部3回生 谷口明日華

**私**は奈良女生協の食堂が大好きです。女子大らしいメニューと家庭料理のよさうなやさしい味でほっとするので、一人暮らしの私にとって大切な場所です。

■理学部1回生 松本唯希

**私**が奈良女に来て良かったと思うのは、女性について考える講義が多いことです。より自分に引き寄せられてもらえることが多いです。あとは学食がとっても美味しい！私は食べるのが大好きなので、毎日お昼の時間がとても楽しみです。

**私**が奈良女に来て良かったと思うのは、一緒に頑張れる友達に出会えたことです。みんな裏面目で親切で気遣いのできる人たちがばかりで、みんなの中にいると私もそんな人になりたい、そしてそんな人になりたい、支えてもらったりする中で、友だちのありがたみをとて感じました。この奈良女で得た友だちという宝物は、一生ものだと思います。そんなみんなにこの奈良女で出会えて本当に良かったです。

**私**が奈良女に来て良かったと思うのは、女性について考える講義が多いことです。より自分に引き寄せられてもらえることが多いです。あとは学食がとっても美味しい！私は食べるのが大好きなので、毎日お昼の時間がとても楽しみです。

**私**が奈良女に来て良かったと思うのは、女性について考える講義が多いことです。より自分に引き寄せられてもらえることが多いです。あとは学食がとっても美味しい！私は食べるのが大好きなので、毎日お昼の時間がとても楽しみです。

**温**かくて前向きな人たちがばかりで、学びたいこと・やりたいことにまっすぐに向かっている環境があります。アルバイトや就職など大変なことでも周りの素敵な方々のおかげで乗り越えられたと確信しています。

■文学部4回生 山口美咲

**奈**良女に来て良かったことは、外国の方々と接する機会が増えたことです！奈良は歴史あるまちであるため、多くの外国の方々を目にしますし、道案内をすることもありません。私は将来英語を使った仕事をしたいため良い環境だなと思います！

**奈**良女に来て良かったことは、外国の方々と接する機会が増えたことです！奈良は歴史あるまちであるため、多くの外国の方々を目にしますし、道案内をすることもありません。私は将来英語を使った仕事をしたいため良い環境だなと思います！

**奈**良女に来て良かったことは、外国の方々と接する機会が増えたことです！奈良は歴史あるまちであるため、多くの外国の方々を目にしますし、道案内をすることもありません。私は将来英語を使った仕事をしたいため良い環境だなと思います！

**奈**良女に来て良かったことは、外国の方々と接する機会が増えたことです！奈良は歴史あるまちであるため、多くの外国の方々を目にしますし、道案内をすることもありません。私は将来英語を使った仕事をしたいため良い環境だなと思います！

**奈**良女という選択をして出会えた素敵な人とのご縁。入学式のときに声をかけてくれたクラスメイトとは、学科が変わってからも仲が良く、刺激を受けています。委員会でも出会えた仲間、共に学びあう同じ学科の仲間もかけがえのない存在です。

■文学部3回生 中桐佑美

**奈**良女に来て良かったと思うのは、周りの友達がみんないい人ばかりなところ！みんな裏面目なので、何事もがんばろうと思えるし、ほわっとした人も多くていつも心が浄化されてます(笑)。あと、鹿がよく来るのが好きです！

■理学部1回生 西山彩加

**10**代で採用され、気持ちだけはまだまだ若いと思っていましたが、課内を見渡せば、すでに1番の古参に…。早いもので、もう25年。110年の内、25年の歴史を知る者として、これからの大学の発展に、少しでもお役に立てればと思っています。

■総務・企画課 職員 早川隆之

**霧** 回気が落ちてきているところが好きです。また、みんな勉強に励む姿勢があり、テスト期間中は図書館が満席になるくらい一生懸命勉強するようなどころも奈良女生ならではのいいなと思います。

■文学部3回生 尾崎永菜

**奈**良女子大学の好きなところは色々なサークルがあることや、食堂のごはんが美味しいことです。また、寮が学校から近かったり学校の敷地面積が小さい分、移動に時間を取られないところも良いところだと思っています。

■理学部1回生 常岡あかね

**奈**良女は1つの学科の人数が少なく、先生との距離が近いのが魅力だと感じています。また奈良女の学食は美味しいだけでなく、愛情がこもってお母さんのご飯を食べているような感覚になります！奈良女に来て良かったです♡

■生活環境学部1回生 酒井美季

**奈**良女子大学は先生と学生の距離が近いのがステキなところ！授業のわからないところの相談から資格の相談や進路の相談などさまざまな相談にのってもらえてとてもありがたいです。

■生活環境学部1回生 粟野愛未

**少**人数制だからこそ一人一人へのケアが行き届いていて、腰をすえて学業に集中できる環境が整えられています。また、特に下宿生、寮生にとって奈良女の学食は心強すぎる味方です。安くておいしいため自炊しなくなる恐れはありますが。

■文学部1回生 河原未歩

**奈**良女子大学の文学部は、1回生の時学科に分かれないので様々な分野を学ぶことができます。この1年は自分が興味のあることを分野に関わらず学ぶことができました。学ぶ分野を絞るのが難しいと欲張りな私にはとても良かったです。

■文学部1回生 平岡小波

**A** Critic  
If you can be a critic of yourself  
Most acute, most honest,  
Yours are the groves of Academe, my dear,  
And what' s more,  
You' ll be the Master of your life.  
■文学部 教員 齊藤美和

**奈**良女の好きなところは、人と人のつながりが強いところ！また寮のメニューがとってもおいしいところ！奈良のお野菜を食べていたり、私たちが学生の地元のメニューがたまに食べられたり、温かい感じが大好きです！

■理学部4回生 天野沙耶

**奈**良女に来て良かった！と思った瞬間は、春日大社のおん祭りを堪能できた時です。大学からすぐに行けるので、昼間の行列や舞の奉納だけでなく、真夜中の神聖な儀式も見に行くことができました。とてもよい思い出になりました。

■文学部4回生 大橋悠花

**奈**良女の独特な空気感がこの大学の好きなところ！奈良女の人々が持つ優しさ、記念館をはじめとする建物の荘厳さによって醸し出される空気を、ここで毎日通っていると、柔軟さを持ちつつも芯のある女性になれるような気がします。

■文学部1回生 村井咲希

**奈**良女子大学の好きなところは色々なサークルがあることや、食堂のごはんが美味しいことです。また、寮が学校から近かったり学校の敷地面積が小さい分、移動に時間を取られないところも良いところだと思っています。

■理学部1回生 常岡あかね

**奈**良女は1つの学科の人数が少なく、先生との距離が近いのが魅力だと感じています。また奈良女の学食は美味しいだけでなく、愛情がこもってお母さんのご飯を食べているような感覚になります！奈良女に来て良かったです♡

■生活環境学部1回生 酒井美季

**奈**良女子大学は先生と学生の距離が近いのがステキなところ！授業のわからないところの相談から資格の相談や進路の相談などさまざまな相談にのってもらえてとてもありがたいです。

■生活環境学部1回生 粟野愛未

**少**人数制だからこそ一人一人へのケアが行き届いていて、腰をすえて学業に集中できる環境が整えられています。また、特に下宿生、寮生にとって奈良女の学食は心強すぎる味方です。安くておいしいため自炊しなくなる恐れはありますが。

■文学部1回生 河原未歩

**奈**良女子大学の文学部は、1回生の時学科に分かれないので様々な分野を学ぶことができます。この1年は自分が興味のあることを分野に関わらず学ぶことができました。学ぶ分野を絞るのが難しいと欲張りな私にはとても良かったです。

■文学部1回生 平岡小波

**A** Critic  
If you can be a critic of yourself  
Most acute, most honest,  
Yours are the groves of Academe, my dear,  
And what' s more,  
You' ll be the Master of your life.  
■文学部 教員 齊藤美和

**奈**良女の好きなところは、人と人のつながりが強いところ！また寮のメニューがとってもおいしいところ！奈良のお野菜を食べていたり、私たちが学生の地元のメニューがたまに食べられたり、温かい感じが大好きです！

■理学部4回生 天野沙耶

**奈**良女に来て良かった！と思った瞬間は、春日大社のおん祭りを堪能できた時です。大学からすぐに行けるので、昼間の行列や舞の奉納だけでなく、真夜中の神聖な儀式も見に行くことができました。とてもよい思い出になりました。

■文学部4回生 大橋悠花

**奈**良女の良さは、勉強できる環境が整っているところだと思っています。レポートや課題が大変でも、一緒にがんばってくれる友人がいて、その存在が心強く、困難なことを乗り越えた場面がたくさんありました。また資格取得やサークル活動など多くの面で努力している人が多く、刺激をもらうことが多くありました。そのような人の良さが勉強しやすさに繋がっていると思っています。

■理学部3回生 古石莉菜

**奈**良女子大学の好きなところは色々なサークルがあることや、食堂のごはんが美味しいことです。また、寮が学校から近かったり学校の敷地面積が小さい分、移動に時間を取られないところも良いところだと思っています。

■理学部1回生 常岡あかね

**奈**良女は1つの学科の人数が少なく、先生との距離が近いのが魅力だと感じています。また奈良女の学食は美味しいだけでなく、愛情がこもってお母さんのご飯を食べているような感覚になります！奈良女に来て良かったです♡

■生活環境学部1回生 酒井美季

**奈**良女子大学は先生と学生の距離が近いのがステキなところ！授業のわからないところの相談から資格の相談や進路の相談などさまざまな相談にのってもらえてとてもありがたいです。

■生活環境学部1回生 粟野愛未

**少**人数制だからこそ一人一人へのケアが行き届いていて、腰をすえて学業に集中できる環境が整えられています。また、特に下宿生、寮生にとって奈良女の学食は心強すぎる味方です。安くておいしいため自炊しなくなる恐れはありますが。

■文学部1回生 河原未歩

**奈**良女子大学の文学部は、1回生の時学科に分かれないので様々な分野を学ぶことができます。この1年は自分が興味のあることを分野に関わらず学ぶことができました。学ぶ分野を絞るのが難しいと欲張りな私にはとても良かったです。

■文学部1回生 平岡小波

**A** Critic  
If you can be a critic of yourself  
Most acute, most honest,  
Yours are the groves of Academe, my dear,  
And what' s more,  
You' ll be the Master of your life.  
■文学部 教員 齊藤美和

**奈**良女の好きなところは、人と人のつながりが強いところ！また寮のメニューがとってもおいしいところ！奈良のお野菜を食べていたり、私たちが学生の地元のメニューがたまに食べられたり、温かい感じが大好きです！

■理学部4回生 天野沙耶

**奈**良女に来て良かった！と思った瞬間は、春日大社のおん祭りを堪能できた時です。大学からすぐに行けるので、昼間の行列や舞の奉納だけでなく、真夜中の神聖な儀式も見に行くことができました。とてもよい思い出になりました。

■文学部4回生 大橋悠花

**奈**良女の好きなところは色々なサークルがあることや、食堂のごはんが美味しいことです。また、寮が学校から近かったり学校の敷地面積が小さい分、移動に時間を取られないところも良いところだと思っています。

■文学部1回生 山田有優

**奈**良女子大学の好きなところは色々なサークルがあることや、食堂のごはんが美味しいことです。また、寮が学校から近かったり学校の敷地面積が小さい分、移動に時間を取られないところも良いところだと思っています。

■理学部1回生 常岡あかね

**奈**良女は1つの学科の人数が少なく、先生との距離が近いのが魅力だと感じています。また奈良女の学食は美味しいだけでなく、愛情がこもってお母さんのご飯を食べているような感覚になります！奈良女に来て良かったです♡

■生活環境学部1回生 酒井美季

**奈**良女子大学は先生と学生の距離が近いのがステキなところ！授業のわからないところの相談から資格の相談や進路の相談などさまざまな相談にのってもらえてとてもありがたいです。

■生活環境学部1回生 粟野愛未

**少**人数制だからこそ一人一人へのケアが行き届いていて、腰をすえて学業に集中できる環境が整えられています。また、特に下宿生、寮生にとって奈良女の学食は心強すぎる味方です。安くておいしいため自炊しなくなる恐れはありますが。

■文学部1回生 河原未歩

**奈**良女子大学の文学部は、1回生の時学科に分かれないので様々な分野を学ぶことができます。この1年は自分が興味のあることを分野に関わらず学ぶことができました。学ぶ分野を絞るのが難しいと欲張りな私にはとても良かったです。

■文学部1回生 平岡小波

**A** Critic  
If you can be a critic of yourself  
Most acute, most honest,  
Yours are the groves of Academe, my dear,  
And what' s more,  
You' ll be the Master of your life.  
■文学部 教員 齊藤美和

**奈**良女の好きなところは、人と人のつながりが強いところ！また寮のメニューがとってもおいしいところ！奈良のお野菜を食べていたり、私たちが学生の地元のメニューがたまに食べられたり、温かい感じが大好きです！

■理学部4回生 天野沙耶

**奈**良女に来て良かった！と思った瞬間は、春日大社のおん祭りを堪能できた時です。大学からすぐに行けるので、昼間の行列や舞の奉納だけでなく、真夜中の神聖な儀式も見に行くことができました。とてもよい思い出になりました。

■文学部4回生 大橋悠花

**F**楼5階から見る花火があんなに綺麗なんですね、7年いて初めて知りました。気づいてない奈良女の魅力はきっとたくさんあるはず！

■生活環境学部3回生 平山美紀

**奈**良女子大学の好きなところは色々なサークルがあることや、食堂のごはんが美味しいことです。また、寮が学校から近かったり学校の敷地面積が小さい分、移動に時間を取られないところも良いところだと思っています。

■理学部1回生 常岡あかね

**奈**良女は1つの学科の人数が少なく、先生との距離が近いのが魅力だと感じています。また奈良女の学食は美味しいだけでなく、愛情がこもってお母さんのご飯を食べているような感覚になります！奈良女に来て良かったです♡

■生活環境学部1回生 酒井美季

**奈**良女子大学は先生と学生の距離が近いのがステキなところ！授業のわからないところの相談から資格の相談や進路の相談などさまざまな相談にのってもらえてとてもありがたいです。

■生活環境学部1回生 粟野愛未

**少**人数制だからこそ一人一人へのケアが行き届いていて、腰をすえて学業に集中できる環境が整えられています。また、特に下宿生、寮生にとって奈良女の学食は心強すぎる味方です。安くておいしいため自炊しなくなる恐れはありますが。

■文学部1回生 河原未歩

**奈**良女子大学の文学部は、1回生の時学科に分かれないので様々な分野を学ぶことができます。この1年は自分が興味のあることを分野に関わらず学ぶことができました。学ぶ分野を絞るのが難しいと欲張りな私にはとても良かったです。

■文学部1回生 平岡小波

**A** Critic  
If you can be a critic of yourself  
Most acute, most honest,  
Yours are the groves of Academe, my dear,  
And what' s more,  
You' ll be the Master of your life.  
■文学部 教員 齊藤美和

**奈**良女の好きなところは、人と人のつながりが強いところ！また寮のメニューがとってもおいしいところ！奈良のお野菜を食べていたり、私たちが学生の地元のメニューがたまに食べられたり、温かい感じが大好きです！

■理学部4回生 天野沙耶

**奈**良女に来て良かった！と思った瞬間は、春日大社のおん祭りを堪能できた時です。大学からすぐに行けるので、昼間の行列や舞の奉納だけでなく、真夜中の神聖な儀式も見に行くことができました。とてもよい思い出になりました。

■文学部4回生 大橋悠花



▲ 理学部 1 回生 青山さくら  
左:「記念館に集まる鹿たち」  
右:「夜の記念館」



▲ 人間文化研究科博士後期課程 幸知恵  
左:「金木屋と四阿」 右:「初冬、鹿のケンカ」



▲ 文学部 2 回生 南香里  
左: N302 にて「怪奇現象かよ」  
※プロジェクターのバグ  
右: 学生会館 2 階の女子トイレ個室にて「いやお前使われんのかい」



▲ 生活環境学部 4 回生 岩松櫻紗  
最後の大学祭で食べた「ならじよまん」は私たちが作っていたころと同じ味でした。これからも変わらぬ「ならじよ」であってほしいです。



▲ 人間文化研究科博士後期課程 横田直子  
夜遅くなったときに、同じ研究室の友人が差し入れにと置いて帰ったみかんです。



▲ 生活環境学部 教員 石坂友司  
「卒業式」大学の一年の中で、もっとも華やかで、もの悲しい季節の一枚です。



▲ 生活環境学部 4 回生 石川ひかり  
左:「誰もいない記念館の 2 階」  
右:「恋都祭前の奈良女」



◀ 人間文化研究科博士後期課程 片桐真佐子  
「奈良女のお地藏様」  
学生食堂へとつづく坂道の角でいつも見守ってくれているお地藏様です。古の時の流れを感じます。奈良女子大学の 200 周年記念にもずっとこのまま学生たちを見守ってくださるように。



▲ 生活環境学部 教員 浅井智子  
昨年 11 月初旬に撮影した、学内の風景です。この光景を目にした瞬間、思わずスマホを手に取り、母へ連絡していました。校内で自然を感じられるひとときがとても幸せです。



▲ 人間文化研究科博士前期課程 中川友希江 「四季折々の記念館」



▲ 学務課 職員 奥田知行  
「若草山の山焼き 2018 鹿と花火」



◀ 生活環境学部 教員 小村智美  
食物栄養学科の学生が主体的に作製する「季節弁当」。学祭時に一般販売し、毎年完売するほどの好評ぶり。将来管理栄養士を目指す学生が作るお弁当は絶品です! 年々成長していく学生さんと接することができて嬉しい限りです。



▲ 生活環境学部 教員 大高千明  
「記念館で雨宿り」



▲ 理学部 4 回生 加藤もも 「奈良女子大学の紅葉」



◀ 人間文化研究科博士前期課程 劉夢瑤  
霜降の節気、E 棟の前のツタ。段階的に変化する色から季節の遷り変わりを感じる。



▲ 人間文化研究科博士前期課程 西澤ゆきの  
奈良女子大学に入学して、たくさんの成長ができました。そのきっかけのひとつに JazzyClub があります。コンミスとして、みんなで作り上げた演奏会は、本当に演奏して楽しかったし、どの代にも負けたいと思っていますみんな、ありがとう。

## ワタシの奈良女子大学フォルダ

学生や教職員からの歌・メッセージに続いて写真も集まりました。学内の四季折々の風景や、大事な思い出、学んだ研究室の何気ない1枚もととせ ももとせ とこしへに …。

※各投稿者の所属・学年は2018年度現在のもの。



◀ 生活環境学部 教員 三木健寿  
奈良の1月は寒くて凍えます。1月下旬は卒論と修論のデータ解析のピークになり、外は寒いのですが、研究室は熱気に満ちています。そんな1月下旬の土曜日の夕方、研究室で作業していると窓越しにドーンという音が聞こえ始めます。18時15分からです。「今年もそんな時期になったのか」とカメラをもって、A 棟の屋上にゆくと、暗い中に集まって若草山焼きの前に行われる大花火を見えています。毎年、寒くて震えながら、記念館の向こうの若草山の花火を撮影します。私は、今年で退職します。来年は、別の場所で卒論修論を思い出しながら花火を撮影したいと思っています。



◀ 生活環境学部 4 回生 井下真美子  
左: 恋都祭でステージ発表を見ながら、スイーツタイム♪ハートマークの大和茶パウンドケーキは、ならの食プロジェクトのみなさんの手作りです!  
中・右上: 恋都祭の華道部展示! 一年で一番大きな展示の機会なのでみんな張り切って準備しました  
右下 2 枚: みんなでわいわいした調理実習の授業が楽しかったです。一番、盛り上がるのは試食タイム(笑)



▲ 佐保会 理事長 松尾欣枝  
左から順に  
・記念館と半旗 S64.1 昭和天皇崩御  
・正門と半旗 S64.1 昭和天皇崩御  
・旧理学部棟解体工事 S35.6ころ  
・旧文学部N棟 S40ころ



▲ 学務課 職員 鶴武志  
「奈良女子大学記念館とハール・ポップ彗星 (C/1995 O1)」  
1997年3月30日に撮影したハール・ポップ彗星。間違いなく20世紀最大級の彗星でこの時の光度は+1等以上あり肉眼でも簡単に見つけられました。現在ならスマホでも写せる明るさですが、当時はまだデジカメもない時代で守衛さんに不審者と間違われぬように声をかけてから三脚を立ててフィルムカメラで撮影しました。記念館の左上に昴(M45・プレアデス星団)も写っています。



▲ 人間文化研究科博士前期課程 劉嘉靚  
左: 学食から眺める中央池の風景でした。緑がいっぱい目に映され、見る側の我々は鹿たちと一緒にゆっくり昼ごはんを食べていました。右: 誰もいない学園祭の間の夜でした。校内の風景もいつもと違うように、カラフルに見えると思います。これが、ちょっと変わった奈良女の深夜だったでしょう。



▲ 生活環境学部 教員 星野聡子  
左: 「奈良女子大学体育館」  
学生のからだと青春を下支えし続ける場。平成耐震大改修でワクワクしながらリフォームしました。法律的に唯一許された増設により両体育館に立派な玄関が誕生。第2体育館のアイアン講表札を救出して両体育館の中央に設置しました。  
右: 記念館にベートーヴェン…映画「滝廉太郎物語」撮影時  
萌黄色した記念館の大きな壁にだかれて、貴重な青年期を過ごすことができました。平和かつ多様な価値観の心地よい時空間。自信の芽が散りばめられたキャンパス。声なけれども響きあり。つめよまことの教え草と。



▲ 文学部 教員 吉田孝夫  
南門は、カードで開ける時間帯には、ほんわか人間ドラマの舞台になる。つい先日、すっかり日の暮れた晩方に、某学部の重鎮教授と学生とが、この大扉の前で向かい合い、お先にどうぞと手を差し出して、しばらく譲り合いを続けてはった。



▲ 人間文化研究科博士後期課程 河上瑞穂  
「奈良女の心癒される四季の花々」



▲ 生活環境学部 教員 辻愛  
大学内に自由にいる鹿に驚きました。奈良女の長い歴史を感じ、自然豊かで落ち着いた雰囲気が好きです。



◀ 文学部 2 回生 佐々木玲奈  
奈良女子大学内の金木犀(食堂側のN棟入口近く)



▲ 研究協力課 職員 狩野順也  
23年間メンテナンスし続けていまだ現役の加速器です。最近少し反抗期で悲しい(笑)



▲ 人間文化研究科博士前期課程 西村美穂  
奈良女でできた友達とはNに限りない!



▲ 理学部 教員 石井邦和  
みんなでメンテナンスしながら放射線物理学研究室で使っている加速器です。



◀ 理学部 教員 佐伯和彦  
左: 「いざ、新入生歓迎ハイキングへ(文学部北棟の北側で)」  
右: 「新入生歓迎ハイキングでの昼食(奈良公園にて)」



▲ 文学部 4 回生 大瀧美遥  
部活終わりの食堂でのひと時です。2皿分のセルフバーを取る食いしん坊もいます。



▲ 理学部 教員 高島弘  
化学コースで毎年開催されている、卒業研究発表会の一コマ。白熱した議論が行われています。

# 学生・OG会談 奈良女スポーツを楽しむ

## 〈奈良女子大学体育会 温故知新〉

奈良女子大学体育会は、学生へのスポーツの普及や運動部※1の強化を目的に、1972年に設立されました。今回は、体育会OG・大久保あかねさん（1987年卒）をお招きし、旧・新体育会役員である現役学生3名との座談会を行いました。現体育会顧問であり、生活環境学部心身健康学科准教授の星野聡子先生の司会のもと、奈良女子大学体育会の「昔と今」について語っていただきました。

（以後、名称について、奈良女子大学体育会Ⅱ奈良女体育会、大久保あかね氏Ⅱ大久保、星野聡子先生Ⅱ星野、現役学生Ⅱ学生と表記）



**大久保 あかね(おおくぼ あかね)**  
1987年奈良女子大学文学部教育学科体育学専攻卒業。株式会社リクルート、旅行情報誌「じゃらん」に勤務後、1998年に立教大学観光学研究所に社会人入学し、2004年博士号（観光学）を取得。常葉大学、日本大学を経て2019年4月より静岡国立大学教授。

### スポーツを、そしてかつての奈良女体育会を通して

**大久保** 文学部教育学科体育学専攻の卒業生で、奈良女体育会OGの大久保です。学生時代は剣道部に所属していました。今は静岡県立大学経営情報学部観光マネジメントメジャーの教授（専門は観光学）をしています。ところで、大学時代の体育学の授業でも印象に残っていることがあるんです。それは、体育学とは人間を等身大で研究して、等身大で社会を見る学問なんだ、ということです。大学で、自分がどのように学問に向き合っていくべきか分からなかったときに、この教えに出会いました。自分と等身大で社会を見ていく、つまり自分の「からだ」を通して実際に体験して学ぶところに体育とかスポーツというものがあると、と分かりましたね。

**星野** 大学時代の体育会での活動を通して得られたものはありましたか？  
**大久保** 第一に、いろいろな部活の人と友達になれたことですね。

当時の体育会には、各部活の代表者が集まってお互いの情報を共有する、リーダーズキャンプという行事がありました。そこでは外部から講師の方を招いてテーピングや救命救急についての講座を受け、また各部のオリジナル体操やストレッチを披露しました。まさに「等身大で社会を見る」機会と、仲間とのつながりを合わせて得られた、とても楽しい思い出です。第二に、奈良の仏像のいろいろなポーズに、ダンスに通じるものを感じたり、最近始めたヨガの動きを紐解いていくと、学生の頃にやったストレッチの動きとながっていると気づいたりします。体育会でのスポーツ経験を通じて文化を見つめられるようになりましたね。

**学生** 今の奈良女体育会には、大久保さんの時代に行われていたような、宿泊を伴うリーダーズキャンプはないんです。それと同様に、かつて盛んだった他大学との交流も、少し薄れつつあって……。そのあたりは、現在の課題です。  
**大久保** 運営は難しいですよ。  
**星野** 他大学との交流は、当時ほどのようなものを行っていたんですか？  
**大久保** いろいろありましたが、例えばスキーツアーをしていました。民宿を1か月貸し切りにして、いろいろな大学の混合メンバーでスキーを楽しんでいましたね。私も3年間参加しました。

学生 とても楽しそう……！

### 「萌黄」から見る奈良女体育会

**星野** 体育会では、年に1回「萌黄」という冊子を発行していますね。萌黄色は奈良女体育会のシンボルカラーなんです。春に萌え出す新芽の色、まさに奈良女にふさわしい色ですよ。そして、創刊号の序論に掲載されている、当時の体育会委員長の所信表明がとてつもない面白いです。「スポーツは、遊戯性と人格陶冶の場を含む文化的行動であり、そのほかにもスポーツが生む利益はたくさんある。そして、それらを手に入れようとするときに必要な、「運動がしたい」という個人の主体性と、それを支える社会的環境的条件を踏まえて設立されたのが体育会だ。」とあります。スポーツをすること、その環境づくりへの能動的な意志を重視しています。さらに体育会の意義として、運動部の運営のみならず、一般学生の要望も汲み取って、スポーツをリードするような組織でありたいと、この「萌黄」創刊号から、体育会の伝統を実感しますが、現役の学生さんは、体育会という存在にどんな意義があると考えますか？

**学生** 奈良女の運動部の魅力を、長い歴史と一緒に伝えていくことに意義があると思っています。1年と少し前に、体育会室の整理

をしたのですが、創刊号からの「萌黄」や過去の体育会企画の報告書が出てきました。かつての体育会の先輩方が生き生きと活動されていたことが伝わってくる資料がたくさん見つかったんです。現在は様々なサークル活動も増え、他大学との合同サークルも魅力的に映ります。でも、それらとはまた違った、ずっと続いている運動部の魅力について、こんなところがいいよ、と同じ奈良女生にアピールしていくことの必要性を感じています。それから、自分たちが何もしなくても運動できる環境が手に入るの当たり前前、という認識が広まっているように思います。しかし、「萌黄」創刊号の序論にもあるように、運動する環境は主體的に、能動的に生み出さなくてはならないんです。自分が何もしなくても体育館などの施設が使えることは、体育会という組織がなければできないことなんだと知ってもらえたら、体育会の意義も学生間でもっと共有されていくかもしれません。

### 奈良女でのスポーツを考える

**星野** 体育会初代顧問の丹羽昭昭先生（現名誉教授）は、「萌黄」第3号で、「もともとスポーツは生きることの充実として発達してきたもので、単にスポーツを受動的に楽しむのではなく、大学という場で自ら創造してほしい」と強調されています。体育会活動を通して、能動的にスポーツを楽しんでほしいですね。  
**大久保** 奈良女の学生は、自分の意志で受験して入学してきているのだから、自分から何かを乗り越えるという経験はしていますよね。そこで、受験が終わったと燃え尽きたまま4年間を過ごすのか、それとも次のハードルに向けてエンジンをかけ直すのか。体育会が、そのエンジンをかけ直すきっかけになるといいですね。



**星野 聡子(ほしの さとこ)**  
奈良女子大学生活環境学部心身健康学科准教授、博士（人間科学）。主な授業担当は、「スポーツ精神生理学」「スポーツ生理学」「武道（剣道・なぎなた）」、体育会顧問、剣道部顧問・監督。

**学生** 私は、奈良女体育会運動部はメリハリがあると実感しています。例えば私立大学の運動部だと、かなり厳しいスケジュールで活動していると思うんですが、奈良女の運動部には、活動が週3日程度というところも多いです。それでも、指導はきちんと行われるから、初心者でも一から頑張ろうという気持ちになれるんです。  
**星野** 先輩も、後輩に教えるのが上手なんです。  
**大久保** かつて女子高等師範学校だったとい

う背景も、教え上手な人が多い理由のひとつかもしれませんね。OGの指導者もいらつしやるし。  
**学生** 部活によっては、経験者が少ない中でも、自分たちで部活を運営していかなければならぬところもあるんです。大変ではあります。それでも、やりがいがありますね。  
**大久保** 奈良女体育会では、そういう自主的な伝統が長く続いているというのが大きいと思います。それから、女子大だからこそできることもありますよね。共学の大学では、女性がリーダーシップをとることはあまりないかもしれないけれど、奈良女では自然と女性が先頭に立ちます。そういう経験を集めるこの大学でスポーツができるというのは、恵まれた環境にいるということではないでしょうか。

### 現在の奈良女体育会がめざすもの

**学生** 先ほどのリーダーズキャンプに代わるものとして、昨年はリーダーシップセミナーというものを開催しました。宿泊を伴うものではあ



近畿地区国立大学体育大会 女子の部 団体戦での入賞成績		
2018年	第56回	剣道の部 準優勝
2017年	第55回	硬式テニスの部 準優勝
2016年	第54回	剣道の部 第3位
2015年	第53回	バドミントンの部 優勝
		バレーボールの部 準優勝
2014年	第52回	剣道の部 準優勝
		卓球の部 準優勝
		バドミントンの部 準優勝
		剣道の部 第3位
2013年	第51回	ソフトテニスの部 第3位
		バドミントンの部 第3位
		テニスの部 優勝
2012年	第50回	硬式テニスの部 準優勝
2011年	第49回	硬式テニスの部 優勝
		卓球の部 準優勝
2009年	第47回	弓道の部 優勝
		ハンドボールの部 第3位
		水泳の部 第3位
2008年	第46回	弓道の部 準優勝
		バレーボールの部 準優勝
2007年	第45回	硬式テニスの部 優勝
		卓球の部 準優勝

※2 近畿団体戦の部以外にも個人の部や下記の各大会でも多数の入賞を記録しています。  
全日本学生合気道競技大会、国立大学フリースケーティング競技会、  
関西学生なぎなた選手権大会、西日本学生なぎなた選手権大会、  
関西公立大学選手権水泳競技大会、  
関西女子国立大学選手権水泳競技大会、  
全国国立大学選手権水泳競技大会、奈良学生テニス選手権大会



を養うことの大切ささえ見失わなければ、学べるのがたくさんあると思います。みなさんが、これからの奈良女体育会を実現したいことはありますか？  
学生 各都同士のつながりを作っていく体育会でありたいです。そのために、役員だけでなく動くのではなく、各部の代表が集まるなどして、問題点を共有できる場を設けることが必要だと考えます。また、各部が困っていることに対し、金銭面でもサポートできたらと思っています。  
大久保 限られた施設をみんなで使い合っているという現状から考えても、体育会内で定期的に集まって交流をすることは重要ですね。相談できる相手がいるというだけでも、それはとても励みになりますから。役員のみならずには、そういう機会を積極的に設けてほしいですね。

星野 それでは最後に、奈良女体育会で過ごす青春の中で実現したいことはありますか？  
学生 何か楽しいことをしたいです。部活でのいろいろな活動を通して、真剣にものごとに取り組むことの良さに気が付きました。その経験を踏まえて、部活の所属にかかわらず、奈良女の多様な学生が参加したいと思えるような取り組みを実現するのが目標です。  
※1 本学ではサークルに体育系、文化系、音楽系の計約50団体公認されており(2018年度現在)、体育会には体育系約20団体が加入している。

体育会所属の運動部	「萌黄」への活動紹介掲載期
陸上部	体育会創立時(1972年)～現在
硬式テニス部	体育会創立時(1972年)～現在
バスケットボール部	体育会創立時(1972年)～現在
バドミントン部	体育会創立時(1972年)～現在
ソフトテニス部	体育会創立時(1972年)～現在
アイススケート部	体育会創立時(1972年)～現在(2011年を除く)
モダンダンス部	体育会創立時(1972年)～現在
バレーボール部	体育会創立時(1972年)～現在
弓道部	体育会創立時(1972年)～現在
卓球部	体育会創立時(1972年)～現在
薙刀部	体育会創立時(1972年)～現在
体操部	体育会創立時(1972年)～1998年(1975年～1981年を除く)
ワンダーフォーゲル部	体育会創立時(1972年)～1999年
フォークダンス部	1973年～1989年
ソーシャルダンス部	1977年～2000年
ハンドボール部	1977年～現在
剣道部	1978年～現在
水泳部	1982年～現在(2014年～2015年を除く)
基礎スキー部	1982年～現在
合気道部	1987年～現在
ラクロス部	1998年～現在
舞踊部	2002年～現在
柔道部	2003年
サッカー部	2005年～現在

星野 運動が得意な人も苦手な人も、体育会の部活動に興味を持ってもらえるような発信ができそうです。この他にも、スポーツの機会が身近になるような環境づくりを、みなさんで考えておられるようですね。  
学生 これからの体育会は、一般会員の学生のみならずにも親近感を持っていただきたいです。学内企画や他大学との合同企画をたくさん増やして、みなさんに魅力を感じて

目に見えて歴史として残っていく感じがします。「萌黄」がこれらほとんどを担って残っていくのも、感動するでしょうね。  
学生 今年は新入生に向けて、「萌黄」の存在も広めていけたらと思います。こんなにしつかりした冊子があると知っていたら、読んで部活選びの参考にしたいと思うでしょうし。今までは新入生全員に「萌黄」を配布する体制はとついでに、どこかでそういう機会を設けたいです。また、運動部に入っていない学生にも各部の活躍を知ってもらうために、「Twitter」のほかに、例えば「奈良女体育会新聞」なら「スポーツ」のような記事をつくることも考えています。



いもありました。そこで、体育会では現在、「Twitter」アカウントを運営し、体育会の活動の発信や、各部の情報共有をしています。まだ小規模ではありますが、新しく設置した後職である広報の担当者が、もっと活動規模を大きくしていく予定です。  
大久保 新しいツールがどんどん出てきて、昔よりも簡単に共有できる情報が増えましたね。  
学生 それから、体育会が独自でできることとして、7月のオープンキャンパスでは体育会紹介ブースをつくりました。高校生に、奈良女体育会の各部がどのように活動しているのかを宣伝するのが目的でした。おかげさまで大盛況だったので、秋のオープンキャン

パスを兼ねた11月の恋都祭(奈良女子大学園祭)で、再びこのポスターをずらりと掲示してアピールしました。この宣伝活動は今後も続けていきたいと思っています。  
星野 高校生のみなさんは、大学選びの中で、学生生活のうち勉強以外の時間をどのように使えるのか、興味津々だったようですね。  
大久保 各部が、アナログなポスターで宣伝をしているのがいいですね。  
学生 奈良女学生はアナログな媒体が好き人が多いと思うんです(笑)。「萌黄」もそうですが、こういうものをアナログで見るととてもワクワクしませんか？

大久保 ワクワクします!! アナログだと、

### 学生記者の声



実際に「萌黄」創刊号を読ませていただいたときは、奈良女体育会の長い歴史と、かつての学生の熱い意気込みが文字通り手に取るように伝わってきてドキドキしました。今回の記事を通して、読者の皆さんに、奈良女体育会そのものの魅力だけでなく、奈良女という大学の良さも感じていただければ本望です。  
竹内 明日香(たけうち あすか)  
文学部人文社会科学科  
社会情報学コース3年生  
出身校 宮城県仙台第二高等学校

### 奈良女子大学体育会学生



中井 夏帆(なかい かほ)  
体育会前委員長  
文学部人文社会科学科  
古代文化学コース4年生  
なぎなた部 前副部長  
出身校 栃木県立宇都宮中央女子高等学校



中谷 円香(なかに たまか)  
体育会委員長  
文学部人間科学科  
教育学人間学コース3年生  
なぎなた部  
出身校 京都府立嵯峨野高等学校



高木 奈奈(たかもと なな)  
体育会広報  
理学部数物科学科  
数学コース3年生  
水泳部 部長  
出身校 関西大倉高等学校(大阪府)

もらいたいですね。それが体育会自体の活性化にもつながると思っています。他大学との交流も、難しい面もあるものの、途絶えさせたいとは思っているんです。いろいろな工夫してどうにか合同企画を継続して、成功させていきたいです。  
大久保 私が体育会で企画を担っていた時代には、体育会主催の運動会をやっていたこともありましたよ。運動が苦手な人でも楽しめるルールを作ったりして、もし失敗したとしても、次は絶対にみんなに参加してもらえようという新しい企画と宣伝を頑張っていました。失敗してもいいんですよ、大学生時代は。自発的なスポーツを通して人間性

# 佐保会 各支部リレー便り

## ■宮城支部



(1977年理学部  
物理学科卒業、  
1979年理学研究科  
物理学専攻修了)  
玉江京子

5月から新たな元号が始まる2019年、奈良女子大学は創立110周年を迎えます。その節目に「ならじよToday」に寄稿できる機会を頂き、光栄に存じます。とは言え、宮城支部は登録会員27名(2018年9月現在)と、支部の中では最小ではないかと思われる規模感です。

私が宮城支部総会に参加したのは1985年頃からです。まだ会員最年少でしたので、年1回の支部総会に出席すると、先輩方からのお言葉が教訓のように聞こえ、身が引き締まる思いでした。しかしなぜか、他の集まりとは違った居心地の良さを感じたものです。後になって、奈良女の同窓会でその話をした時、多くの賛同が得られました。

宮城支部に話を戻しますと、3代前の支部長 菅原雪枝さんは意識の高い方で、支部主催のコンサートを開いたことや、講演会を催したこともあり、「地域貢献」を意識されていて、著書も残されている方でした。その頃は個人的には、子育てと仕事で忙しく、「地域貢献」について考えを及ぼす余裕などありませんでした。

その後、機織りを趣味にされていた2代前の支部長 斎藤汎子さんは意欲的に展示会を開かれて、支部総会以外に集まることも

ありました。それから徐々にメンバーで集まる機会が増え、前支部長 水野真紀さんを中心に、支部総会に毎回10名前後のメンバーが集まるようになり、毎年メンバーの報告を聞くのが楽しみになっていきます。時期も7月の第一日曜日と決めているので、そこだけは空けておこうと早くからスケジュール帳に記入しているのは私だけではないと思います。このように、特色ある活動をしているわけではない小さな支部の報告で申し訳ございません。しかし、子育てから解放され、来年度を迎える私は、これからの支部の活動を考えられる時期に来ているのかもしれない。メンバーと相談して、今後の活動を企画していきたいと思えます。いつか佐保会総会で、宮城支部の小さな一歩をご報告できたらと思います。



2018年7月8日定例支部会参加メンバー

## ■滋賀支部



(1975年理学部  
化学科卒業、  
1977年理学研究科  
化学専攻修了)  
浅野純子

滋賀支部の二年は毎年6月の総会から始まります。活動報告、計画の承認をいただいた後、内外からお招きした講師による講演、コンサートなどで気持ちをリフレッシュし、会話を楽しみながらの会食で交流を深めます。

「おつみ佐保塾」は佐保会滋賀支部設立75周年を記念して2011年にスタートした事業です。年に2〜3回、講演、現地探訪を計画し、一般の方にも広く参加を呼び掛けています。第1回から3回までは畑裕子さん(1972年卒・文国)を講師に迎えて、「浅井三姉妹を語る」と題した講演並びに小谷城への現地探訪を行いました。その後も歴史、住、食、衣、近江、信長等を題材として開催し続けてきました。2018年は第19回、20回を開催し、高田正子さん(1967年卒・家住)に「農ある暮らしの魅力」と題して講演いただきました。

2018年度は佐保会本部と共催の佐保塾史跡めぐりの担当にあたり、「湖南三山めぐり」のバス旅行に近畿5府県のほか福井、富山からも参加していただきました。紅葉と好天に恵まれ、滋賀の魅力の一端に触れていただけではないかと思えます。

これらの活動は年2回発行の支部だよりで報告しています。ホームページでご覧いた

だくごもできます。(<https://saho-shiga.jindo.com/>)。特徴ある取り組みとして、Aごんには☆支部会員さんVがあらります。支部会員のお宅を訪問し、趣味や仕事、日々の活動などを取材させていただきます。支部だより・ホームページに掲載しています。ホームページには会員の作品紹介、自由に投稿していただく「支部会員日記」という欄もあります。

支部会員414名の方たち(2019年1月現在)に、様々な形で支部の活動に関わりを持っていただき、奈良女子大学や佐保会のことを心に留め置いていただければ、月一回会議を開催し継続的に活動しています。



第19回おつみ佐保塾

## ■韓国支部



(1978年家政学研究科  
住環境学専攻修了)  
申京珠

昨年2018年の佐保会韓国支部を振り返ると会員がそれぞれ熱心に活動した年でした。その中でも各地で小規模の集まりを持ってお互いの近況を尋ねて励ましながら過ごした一年でした(写真1)。その中で皆さんにお伝えしたい内容をご紹介します。

会員の金明愛(キム・ミョンエ)さんは同徳女子大学の総長に就任(2018年8月30日)しました(写真2)。同徳女子大学は奈良女子大学のように100年以上の歴史を誇ります(1910年開学)。9つの単科



(写真1) 左上から梁善雅さん、朴文浩さん、李子淵さん、李環媛さん、安愛三さん、安玉姫さん、崔賢淑さん、左下から秦恩淑さん、鄭運仙さん、金明愛さん(2018年8月、奈良女子大学の集まり)

し、ソウルの江南などのキャンパスでも授業が行われています。金さんは当時の奈良女子大学長谷川教授の指導のもと博士課程を修了されましたが、教授は韓国人留学生の金明愛が日本に到着する数カ月前から、韓国のKBS放送を通じて韓国語を独学して迎えた。というから、奈良女子大学教授陣の熱意に察しがつきました。金さんは、同じ研究室の仲間たちは日本全国から来た実力ある人材で国立である奈良女子大学に対する自負心が大きく、親切で配慮があつて品格があつた。と回想していますが、これは金さんだけでなく奈良女子大学出身の韓国人留学生たちの共通の考えとして理解できました。日本の国民性は親切、感謝、思いやり、忍耐、和合などであり、こうした肯定的な価値は、徳の価値でもあるので、金さんは母校出身初の女性総長として、徳を大学のアイデンティティに、意識の開かれた大学、変化し続ける大学、共に歩む大学、として、第4次産業革命時代を導く女性人材を育成すると抱負を述べました。また、新聞のインタビューで奈良女子大学博士課程を修了したことを強調しており、奈良女子大学のプライドが本人のプライドでもあると言いました。

△ 大学家族住居学科の教授として、韓国住居学会の会長として活躍しています。また、当時の奈良女子大学今村教授の研究室で、修士課程、博士課程及び研究生として11年という長い歳月を過ごした崔賢淑(チ・エヒョン)さんは嶺南大学兼任教授でありながら、2018年6月に区議員候補として大邱直轄市寿城区(テグシ・スング、高山1、2、3洞)に出馬し、政界入り挑戦しました。慶尚南道(キョンサンナムド)出身で釜山(プサン)で小・中・高を卒業した崔さんととって、大邱(テグ)は夫の転勤の関係で移り住んだ未知の土地でもあり、残念ながら当選はできませんでしたが、引き続き挑戦するという抱負を持っています。また、大邱3561A京明ライオンズクラブ(Jons Club)の会長であり、(社)北東アジア都市農観光研究院の理事長として、職域社会に奉仕しながら夢を燃やしています(写真3)。「一番好きな名言は、一期一会であり、二度目の機会を大切に、健康が許し、機会があれば女性として絶えず挑戦して生きていく」という崔さんを応援しています。



(写真3) 大邱京明Lions Club- 愛のジャージャー 分け差し奉仕(左下5番目が会長崔賢淑さん)



(写真2) 金明愛さん同窓総長就任式(同徳女子大100周年記念館で2018年8月)

## 広報企画室より

### 学生記者の皆さんへ「記者活動証」を授与！！

2019年2月12日(火)、広報誌「ならじょ(奈良女)Today」の作成に尽力した学生記者の皆さんに対し、「記者活動証」授与式を実施しました。広報企画室では、2015年度から、広報誌に学生の目線・感性を活かすことを目的に学生記者を導入しており、2018年度は8名の学生が、広報誌の企画、取材、構成、執筆及び編集作業に参加しました。

授与式では、はじめに、学生記者一人ひとりに対し、各々が携わった活動履歴が記された「記者活動証」が授与されました。続いて、広報企画室長である小路田泰直理事(企画・広報担当)から、これまでの学生の活躍を称賛する言葉とともに、今後も学生の柔軟かつ斬新な発想を大学の広報活動に取り入れていきたいとの挨拶がありました。

学生記者からは、「記者活動での経験を、就職して社会人となってからの勤務に活かしたい」などの声聞かれました。

学生からの目線で大学の魅力発信に取り組む彼女たちの書いた記事を是非読んでみてください！！



### 学生表彰

## 2018年度学生表彰

奈良女子大学では、課外活動や社会的活動などで特に顕著な成果を挙げた学生の個人又は団体を年に一度表彰しています。2018年度の表彰式が、2019年2月4日(月)に行われました。受賞者・団体は以下の通りです。(学年は2018年度のものです。)

#### 【個人表彰者】

氏名	所属	サークル等	表彰対象となった業績
由良 南々帆	理学部 化学生物環境学科 3回生	剣道部	第12回全日本学生剣道オープン大会 女子式段以下の部 第3位 (H29.12.17)
嶋前 裕美	理学部 数物科学科 2回生	なぎなた部	第37回関西学生なぎなた選手権大会 初段 個人の部 3位 (H30.6.17)
大野 澁奈	理学部 数物科学科 4回生	器械体操部	第56回近畿地区国立大学体育大会 体操競技の部 個人総合 第3位 (H30.9.7) (種目別) 段違い平行棒 優勝、平均台 第2位 (H30.9.7)
横山 理沙	理学部 化学生物環境学科 2回生	E.S.S.	第45回 新島杯争奪全日本学生英語弁論大会 優勝 (H30.11.23) 第60回 K.I.E.F. 春季英語弁論大会 第2位 (H30.7.1) 第48回 LESSC SPEECH CONTEST 第3位 (H30.6.16)
水口 加琳	文学部 人文社会科学部 2回生	硬式テニス部	第42回奈良学生テニス選手権大会 女子シングルス 優勝 (H30.11.24) 第42回奈良学生テニス選手権大会 女子ダブルス 優勝 (H30.11.25)
山口 真奈	生活環境学部 食物栄養学科 2回生	硬式テニス部	第42回奈良学生テニス選手権大会 女子ダブルス 優勝 (H30.11.25)



#### 【団体表彰者】

サークル等	表彰対象となった業績
剣道部	第56回近畿地区国立大学体育大会 剣道の部 女子団体 準優勝 (H30.8.18)
放送局 B-naRadio	第35回NHK全国大学放送コンテスト 文部科学大臣賞、映像番組部門 第1位 (H30.12.8)
音楽部	第73回関西合唱コンクール 大学職場一般部門 大学ユース合唱の部(少人数)金賞 (H30.10.7)



編集・発行/奈良女子大学広報企画室 編集責任者/室長 小路田泰直 連絡先/奈良女子大学総務・企画課  
〒630-8506 奈良市北魚屋東町 Tel 0742(20)3220 Fax 0742(20)3205 E-mail somu02@jimu.nara-wu.ac.jp  
ならじょ「Today」へのご意見・ご感想を是非お聞かせ下さい。より良い誌面作成のため皆様の叱咤激励をお待ちしています。(編集部)

・バックナンバーはHPをご覧ください。▶ <http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/today/index.html>